

簿記検定講座

体験入学用・WEB 即時受講用

2級工業簿記

合格テキスト Ver.9.1

合格トレーニング Ver.9.1

このたびは、体験入学もしくはWEB 通信をご利用いただき、ありがとうございます。

当資料は、2級工業簿記講義用の体験入学用テキスト冊子になります。

体験入学は、第1回講義にご参加いただけますが、当資料では工業簿記講義第1回講義および第2回講義の学習進度にあわせて、合格テキスト(Ver.9.1)のテーマ01～テーマ04を収載しています。

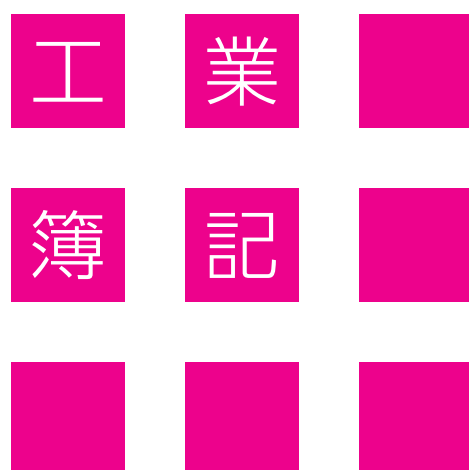
また、巻末には、対応する合格トレーニングも添付しています。あわせてご活用ください。

TAC 簿記検定講座

MEMO

合格テキスト

日商簿記2級



工業簿記の基礎



ここでは、工業簿記と原価計算について、主な用語とその概要を学習する。

Date.1

/

Date.2

/

Date.3

/

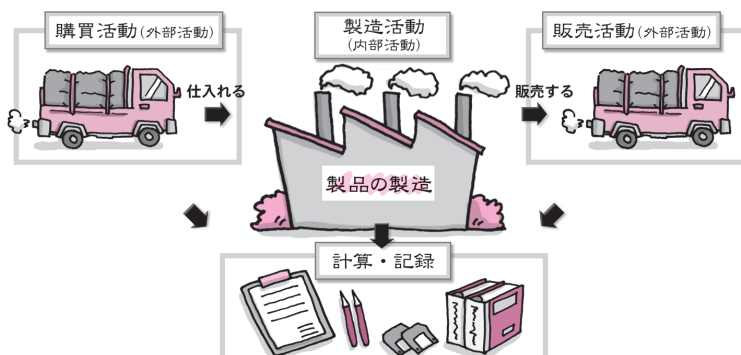
1 工業簿記と原価計算

1. 商業簿記と工業簿記

これまで学習してきた商業簿記は、仕入先から^{しょうひん}商品を購入し、その商品を得先へ販売する^{しょう}品売買業（商企業）で用いられる簿記である。



これから学習する工業簿記は、材料を仕入れ、機械などを利用して加工し、^{せいひん}製品を作り販売する^{せいぞうぎょう}製造業、メーカー（工企業）で用いられる簿記である。



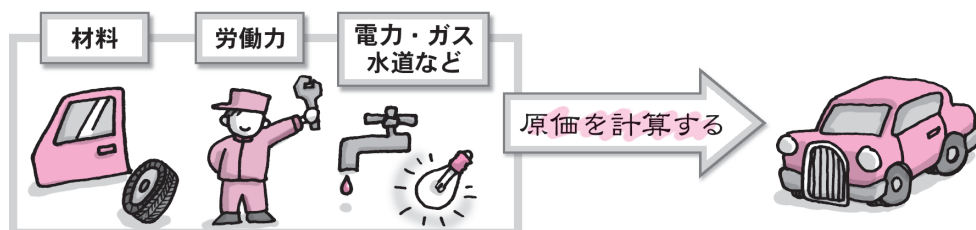
商企業と工企業を見くらべてみると、外部から商品あるいは材料を仕入れる購買活動と、外部に商品あるいは製品を販売する販売活動は両者とも同じである。

したがって、工企業の特徴は^{せいひん}製品の製造（^{せいぞう}製造活動）を行うことにあり、工業簿記は、この製造活動を記録することといえる。

2. 工業簿記と原価計算

製造活動は企業内部で行われる活動（内部活動）であり、製品を製造するのにいくらお金がかかったのかを自ら計算しなければならない。たとえば自動車製造業では、自動車を造るために鉄板やタイヤなどの材料の代金、製造する人たちの賃金や電力料・ガス代・水道代などがかかる。

このような製品を製造するためにかかった金額のことを原価といい、製造活動の記録のためには原価の計算が必要となる。この原価を正確に計算するための計算手続を**原価計算**という。



工企業では、製品の原価を原価計算によって計算し、計算結果を工業簿記によって帳簿に記録する。その後、財務諸表を作成・報告する。工業簿記は原価計算なしでは帳簿に記録する正確な金額を得ることができず、両者は密接な関係にある。

したがって、これから学習する2級工業簿記においても、原価計算によって原価を計算すること、その計算結果を工業簿記によって帳簿に記録することの両方を同時に学習していく。

(注) 原価計算から得られる数値を複式簿記に組み込み、原価計算と有機的に結合している工業簿記を**完全工業簿記**という。また、製造活動によって生じる資源の消費を直接に把握せず、期末に実地棚卸を行ってその変動を間接的に把握する簿記を**商工業簿記**という。なお、本書で扱うのは**完全工業簿記**である。

3. 原価計算期間

工企業においても、商企業と同じように一会計期間（通常1年）における活動の記録にもとづいて、貸借対照表や損益計算書を作成するが、その記録のために行われる原価計算は通常1か月単位で行われる。この計算期間のことを**原価計算期間**という。

このように1か月ごとに原価を計算するのは、製品の原価を迅速に算出するためである。また、次の月において少しでも原価を低くするための資料としても役立てていくことができるからである。なお、この場合の1か月というのは、通常**暦の1か月**（毎月1日から末日まで）である。



★supplement

原価計算基準

昭和37（1962）年に大蔵省企業会計審議会から公表された「原価計算基準」は、従来日本の企業で行われていた原価計算に関する慣行のうち、一般に公正妥当と認められるところを要約したものであり、すべての企業により尊重されるべきものである。したがって、わが国における、原価計算に関する実践規範といえる。

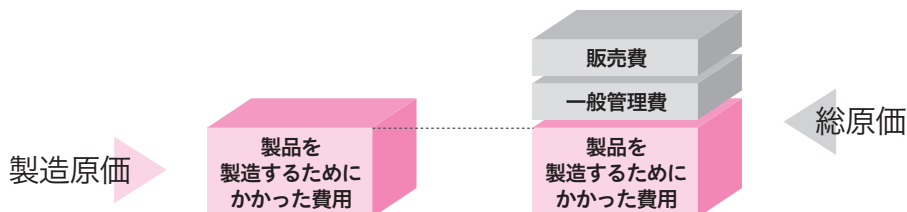
2 原価とは

1. 製造原価と総原価

工業簿記において、**原価**^{げん か}とは製品を製造するためにかかった費用のことをいう。また、この場合の原価を**製造原価**^{せいぞうげん か}という。

さらに、製品を販売するためにかかった費用を**販売費**^{はんばい ひ}、企業全般の管理のためにかかった費用のことを**一般管理費**^{いっぽんかん り ひ}といい、製造原価に販売費及び一般管理費を加えて**総原価**^{そうげん か}という。

(注) 販売費及び一般管理費については、商企業と同様に、実際発生額を全額、発生した期間の費用（期間原価）とする。また、販売費及び一般管理費をあわせて**営業費**^{えいぎょう ひ}とよぶことがある。



設例 1-1

次の項目について、製造原価に算入されるものに○印、製造原価に算入されないものに×印をつけなさい。

- (1) 製品の材料消費額
- (2) 工場で作業する工員の賃金
- (3) 工場機械の減価償却費
- (4) 製品を販売する販売員の給料
- (5) 本社建物の減価償却費

〈解答・解説〉

- (1) ○ … 製品を製造するためにかかった費用であり、製造原価である。
- (2) ○ … 製品を製造するためにかかった費用であり、製造原価である。
- (3) ○ … 製品を製造するためにかかった費用であり、製造原価である。
- (4) × … 製品を販売するためにかかった費用であり、販売費である。
- (5) × … 本社では製品の製造・販売以外の企業全般の管理を行っており、その減価償却費は一般管理費である。



工業簿記において原価とは、通常、製造原価のことをいう。
2級工業簿記では、この製造原価の計算が最も重要である。

基本例題01

解答・解説276ページ

下記の項目について、原価計算上、製造原価となる項目には1、販売費となる項目には2、一般管理費となる項目には3を、それぞれの項目の〔 〕の中に記入しなさい。

- 〔 〕 工場電力料・ガス代・水道代
- 〔 〕 新製品を販売するための広告費
- 〔 〕 工場事務職員給料
- 〔 〕 本社事務職員給料
- 〔 〕 製品の素材消費額

2. 非原価項目

製造原価、販売費及び一般管理費以外の費用を^{ひげん かこうもく}非原価項目といい、基本的には2級商業簿記で学習する営業外費用や特別損失がこれにあたる。

これら非原価項目は、製品の原価を計算（原価計算）する際、原価に含めてはいけないので注意すること。

★supplement

非原価項目

製造原価および経原価に含めない項目を非原価項目といい、次のようなものがある。

(1) 経営目的に関連しないもの

- ① 投資資産である不動産・有価証券、未稼働の固定資産、長期にわたって休止している設備、その他経営目的に関連しない資産などに関する減価償却費、管理費、租税などの費用
- ② 寄付金など経営目的に関連しない支出
- ③ 支払利息、割引料などの財務費用
- ④ 有価証券評価損および売却損

(2) 異常な状態を原因とするもの

- ① 異常な仕損・減損・棚卸減耗・貸倒損失など
- ② 火災・風水害などの偶発的事故による損失
- ③ その他訴訟費用、偶発債務損失など

(3) 税法上特に認められている損金算入項目（課税所得算定上、いわば経費として認められるもの）

- ① 特別償却（租税特別措置法による償却額のうち通常の償却範囲額を超える額）など

(4) 企業の利益から支払われるもの

- ① 法人税、所得税、住民税など
- ② 配当金など

3 製造原価の分類

製品を製造するためにかかった費用（製造原価）は、いくつかの方法で分類できる。

1. 製造原価の種類による分類（形態別分類）

製品を製造するために、何を使用（消費）して発生した原価（どんな種類の原価）なのか、という基準で分類する方法を^{けいたいべつぶんるい}形態別分類という。この方法では製造原価は、材料費、労務費、経費の3つに分類される。

(1) 材料費

製品を製造するために使われる物品を材料といい、製品の製造のために材料を使用（消費）したときの金額（消費額）のことを^{ざいりょうひ}材料費という。

(2) 労務費

製品を製造するために労働力を消費したときの消費額を^{ろうむひ}労務費という。具体的には、工場で作業する工員の賃金などがある。

(3) 経費

製造原価のうち、材料費・労務費以外のものすべてを^{けいひ}経費という。具体的には、工場設備の減価償却費や電力・ガス・水道の消費額などがある。

2. 製品との関連における分類

製品を製造するために、ある製品（特定の製品）にどれくらい原価が消費されたかを個別に計算できるかどうか、という基準で分類する方法を、^{せいひん}製品と^{かんれん}の関連における^{ぶんるい}分類という。この方法では、製造原価は製造直接費と製造間接費に分類される。

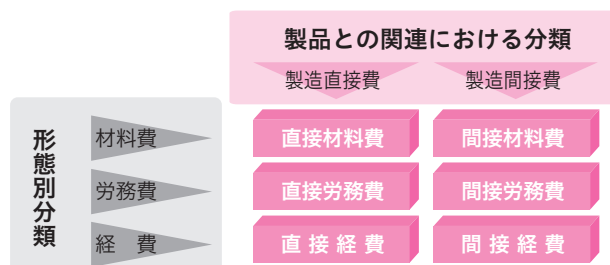
(1) 製造直接費

ある製品を製造するためにどれくらいのコストがかかったかを個別に計算できる製造原価を^{せいぞうちよくせつひ}製造直接費という。具体的には、その製品の製造のために消費した材料費などがある。

(2) 製造間接費

各種の製品のために共通に消費されるか、または特定の製品ごとにどれくらい消費されたかが個別に計算できない製造原価のことを^{せいぞうかんせつひ}製造間接費という。具体的には、複数の製品を製造している場合の工場設備の減価償却費などがある。

これらの分類をまとめると、次のようになる。

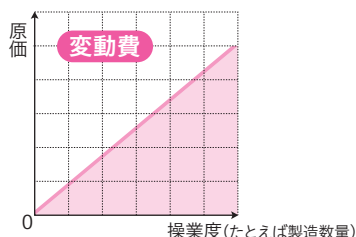


3. 操業度との関連における分類

製造原価は、原価計算の必要に応じて、操業度との関連で変動費と固定費などに分類することがある。なお、**操業度**^{そうぎょうど}とは工場の利用程度を製品の製造数量や作業時間などで測った度合い（生産設備の利用程度）をいう。たとえば、製造数量であれば、月間生産量〇〇個と表される。

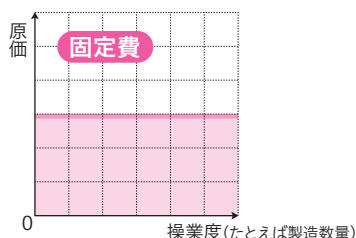
(1) 変動費

操業度の増減に応じて比例的に増減する原価を**変動費**^{へんどうひ}という。



(2) 固定費

操業度の増減に関係なく一定額発生する原価を**固定費**^{こていひ}という。



詳しくは、「テーマ09 個別原価計算(Ⅱ)、テーマ19 標準原価計算(Ⅱ)、テーマ20 直接原価計算(Ⅰ) およびテーマ21 直接原価計算(Ⅱ)」で学習する。

★supplement

直接材料費と加工費

製造原価は、原価計算の必要に応じて、**直接材料費**^{ちよくせつざいりょうひ}と**加工費**^{かこうひ}に分類することがある。

(1) 直接材料費

製品の本体（または本体の一部）を構成する物品の消費高をいう。

(2) 加工費

直接材料を加工するための原価であり、製造原価のうち直接材料費以外をいう。

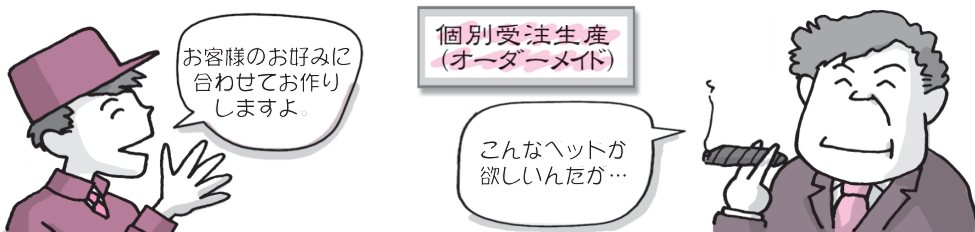
詳しくは、「テーマ12 総合原価計算(Ⅰ)」以降で学習する。

4 個別原価計算と総合原価計算

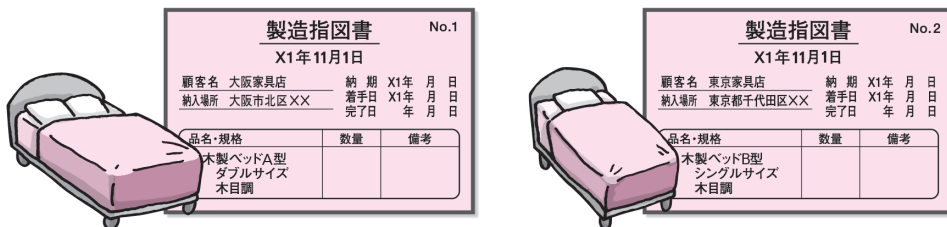
原価計算は、製品をどのように生産しているのか（生産形態という）によって、個別原価計算と総合原価計算という2つの計算方法に分けることができる。

1. 個別原価計算

個別原価計算とは、顧客の注文に応じて特定の製品（注文品）を個別に生産する個別受注生産を行う工企業において用いられる原価計算の方法である。具体的には、家具製造業・造船業・大型機械製造業などの業種で採用される方法である。



個別原価計算では、顧客の注文に応じて特定の製品を個別に生産するため、特定の製品ごとの原価を個別に計算する必要がある。そのため顧客から製品の注文を受けると、製品の注文主や製品の種類と数量、製造着手日、完成予定日などを記載した製造作業の命令書を発行する。この命令書を**製造指図書**という。また、この製造指図書は顧客からの注文ごとに発行される指図書なので、**特定製造指図書**ともいう。



個別原価計算では、個々の製品ごとに製造指図書を発行し、この製造指図書ごとに原価を集計することで、各製品の原価（製造原価）を計算する。

個別原価計算において、直接材料費・直接労務費・直接経費といった**製造直接費**は製品ごとの消費額が判明するため、製品ごとに個別に原価を集計していく。この製造直接費を各製品に集計する手続きを**賦課**（または**直課**）という。

これに対して、間接材料費・間接労務費・間接経費といった**製造間接費**は工場全体での消費額は知ることができるが、製品ごとの消費額が判明しないので、このままでは特定の製品の原価を知ることができない。そこで、ある一定の基準によって、製造間接費を各製品に割り当てる（負担させる）手続きが必要になる。この割り当てる手続きを**配賦**という。

設例 1-2

当社では、注文によって家具を製造販売している。次の資料によって、当月に製造した家具A（製造指図書No.1）と家具B（製造指図書No.2）の製造原価はいくらになるか答えなさい。なお、当月の注文はこの2つですべてであり、両方とも当月中に完成した。

（資 料）

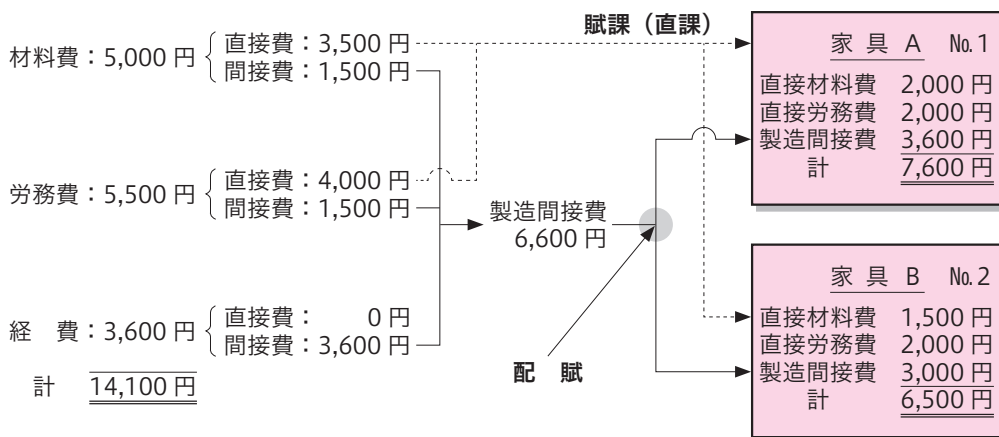
材料の当月消費額……家具Aに2,000円 家具Bに1,500円 共通で1,500円

労働力の当月消費額……家具Aに2,000円 家具Bに2,000円 共通で1,500円

電気代などの当月消費額…共通で3,600円

各製品に共通に消費した原価（製造間接費）は6,600円であり、これを家具Aに3,600円、家具Bに3,000円ずつ割り当てた（配賦した）。

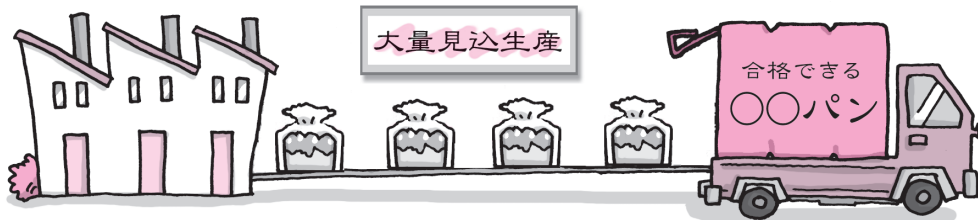
〈解答・解説〉



したがって、家具Aの製造原価は7,600円、家具Bは6,500円となる。

2. 総合原価計算

そうごうげん かいさん
総合原価計算とは、同じ規格の製品を連続して大量見込生産を行う工企業において用いられる原価計算の方法である。具体的には、パン製造業・自動車製造業・衣料品製造業などの業種で採用される方法である。



総合原価計算では、同じ規格の製品を連続して大量に生産するため、製品の原価は1か月（原価計算期間）ごとにまとめて計算すればよい。このため月初において、その月の生産量を記載した製造作業の命令書（製造指図書）を発行する。これは毎月発行される製造指図書であり、けいぞく**継続製造指図書**という。



総合原価計算では、1か月間に製品を生産するのに要した製造原価をまとめて集計し、1か月間の製品の生産量で割ることによって製品1個あたりの原価（製造原価）を計算する。

設例 1-3

当社は、パンを大量生産している。当月のパンの生産量は40,000個であり、この製造に要した原価は次のとおりであった。当月のパン1個あたり製造原価はいくらになるか答えなさい。

パンの材料（小麦粉）代金およびそれ以外の製造原価…12,000,000円

〈解答・解説〉

当月のパン1個あたり製造原価：12,000,000円 ÷ 40,000個 = 300円/個

★supplement

振替仕訳(3級の復習)

振替仕訳とは、ある勘定から別の勘定に**残高**を移すための仕訳である。工業簿記の仕訳は、ほとんどが振替仕訳であるため、この考え方は重要である。

振替仕訳には、次の2つのパターンがある。

(1) 借方から借方への振り替え



たとえば、A勘定の借方残高120円をB勘定の借方に振り替える場合、まず、B勘定の借方に残高120円を記入する。次に、A勘定の貸方に120円を記入し、A勘定の残高をゼロにする。

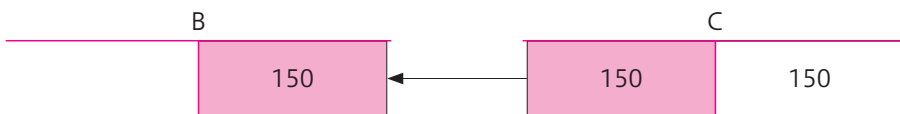


(B) 120 (A) 120

(2) 貸方から貸方への振り替え



たとえば、C勘定の貸方残高150円をB勘定の貸方に振り替える場合、まず、B勘定の貸方に残高150円を記入する。次に、C勘定の借方に150円を記入し、C勘定の残高をゼロにする。



(C) 150 (B) 150



振替仕訳は、勘定記入から仕訳を考えるとよい。

Check ここでは、工業簿記を理解するにあたって、最も重要な勘定連絡図について学習する。

Date.1 / Date.2 / Date.3 /

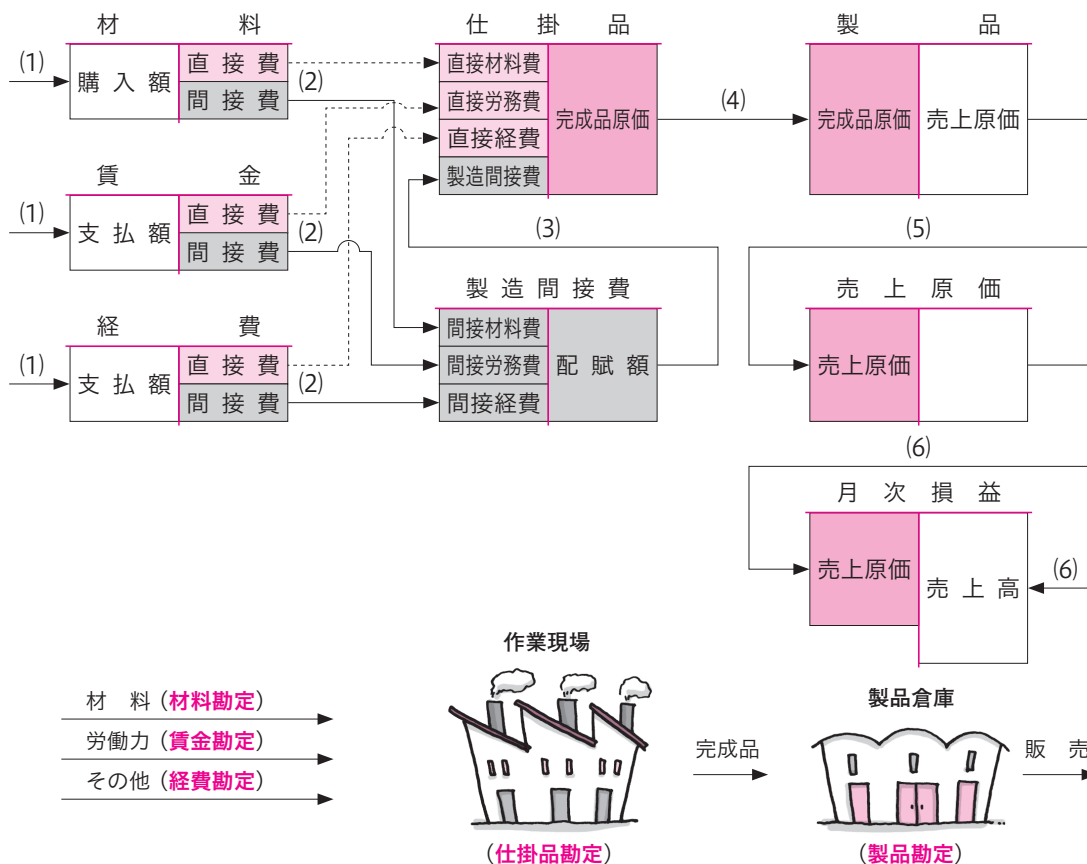
1 工業簿記の勘定連絡図

工業簿記では、企業の内部活動である製造活動について、原価計算の結果を受けて帳簿に記録していく。そのため製造活動に関するいくつかの特有な勘定科目が用いられる。

また、製造活動の計算は製品の製造活動の進行にともなって段階的に行われていくため、その記録も製造活動の進行にともなって段階的になされていく。したがって、工業簿記の勘定記入は振替記入の連続であり、この勘定と勘定の連絡を理解することが重要となる。

1. 勘定連絡図（個別原価計算を用いている場合）

工場全体の勘定連絡図を、個別原価計算を用いている場合を前提として、製造活動の進行に沿って説明する。



- (1) 製品を製造するために、材料の購入・労働力の購入（支払い）・その他の購入（支払い）を行ったとき、それらを^{でいりよう}材料、^{ちんざん}賃金、^{けいひ}経費の各勘定に記録する。

(材 料)	× ×	(買 掛 金 な ど)	× ×
(賃 金)	× ×	(現 金 な ど)	× ×
(経 費)	× ×	(現 金 な ど)	× ×

(注) 材料勘定は材料の購入・消費を、賃金勘定は労働力の購入（支払い）・消費を、経費勘定はその他の原価の購入（支払い）・消費を記録する勘定である。

- (2) 購入した材料・労働力などを製品の製造のために使用（消費）したとき、それらのうち製造直接費は^{しかりひん}仕掛品勘定へ、製造間接費は^{せいぞうかんせつひ}製造間接費勘定へ振り替える。

(仕 掛 品)	× ×	(材 料)	× ×
(製 造 間 接 費)	× ×		
(仕 掛 品)	× ×	(賃 金)	× ×
(製 造 間 接 費)	× ×		
(仕 掛 品)	× ×	(経 費)	× ×
(製 造 間 接 費)	× ×		

(注) 仕掛品勘定は、製造中の製品に投入された原価を集計する勘定である。ただし、間接材料費、間接労務費、間接経費といった製造間接費は、仕掛品勘定に集計する前にいったん製造間接費勘定に集計しておく。なお、仕掛品勘定に代えて^{せいぞう}製造勘定とすることもある。

- (3) いったん^{せいぞうかんせつひ}製造間接費勘定に集計した製造間接費は、適当な基準により各製品に配賦し、これを^{しかりひん}仕掛品勘定に振り替える。

(仕 掛 品)	× ×	(製 造 間 接 費)	× ×
---------	-----	-------------	-----

- (4) 製品が完成したとき、完成した製品の製造原価(完成品原価という)を^{せいひん}製品勘定に振り替える。

(製 品)	× ×	(仕 掛 品)	× ×
-------	-----	---------	-----

(注) 製品勘定は、完成した製品の増加（完成）、減少（販売）を記録する勘定である。

- (5) 製品を販売したとき、売上を計上するとともに、販売した製品の売上原価を^{うりあげん か}売上原価勘定に振り替える。

(売 掛 金 な ど)	× ×	(売 上)	× ×
(売 上 原 価)	× ×	(製 品)	× ×

(注) 工業簿記では、販売した製品の売上原価は販売したつど売上原価勘定に振り替える。

- (6) 原価計算を1か月ごとに行っているため、損益も1か月ごとに計算する。そのために売上や売上原価などの収益・費用を^{げつじ そんえき}月次損益勘定に振り替える。

(売 上)	× ×	(月 次 損 益)	× ×
(月 次 損 益)	× ×	(売 上 原 価)	× ×

基本例題02

解答・解説276ページ

次の取引の仕訳を行い、与えられた勘定の（ ）内に適当な金額を記入しなさい。

〔指定勘定科目〕

現金，売掛金，買掛金，材料，賃金，経費

仕掛品，製造間接費，製品，売上原価，売上，月次損益

- (1)① 材料5,000円を掛けで購入した。
- ② 当月支給分の賃金（労務費）5,500円を現金で支払った。
- ③ 当月請求分の経費3,600円を現金で支払った。
- (2)① 当月消費した材料は，直接費として3,500円，間接費として1,500円であった。
- ② 当月消費した労務費は，直接費として4,000円，間接費として1,500円であった。
- ③ 当月消費した経費は，間接費として3,600円であった。
- (3) 製造間接費勘定に集計した間接費6,600円を，当月製造したすべての製品に割り当てた（配賦した）。
- (4) 当月完成した製品の製造原価は14,100円と計算された。
- (5) 当月完成した製品を20,000円で販売し，代金は掛けとした。
- (6) 当月の売上高および売上原価を月次損益勘定に振り替えた。

		借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	①				
	②				
	③				
(2)	①				
	②				
	③				
(3)					
(4)					
(5)					
(6)					

材 料	
買 掛 金 ()	諸 口 ()

賃 金	
現 金 ()	諸 口 ()

経 費	
現 金 ()	製造間接費 ()

製 品	
仕 掛 品 ()	売上原価 ()

月 次 損 益	
売上原価 ()	売 上 ()

仕 掛 品	
材 料 ()	製 品 ()
賃 金 ()	
製造間接費 ()	
()	()

製 造 間 接 費	
材 料 ()	仕 掛 品 ()
賃 金 ()	
経 費 ()	
()	()

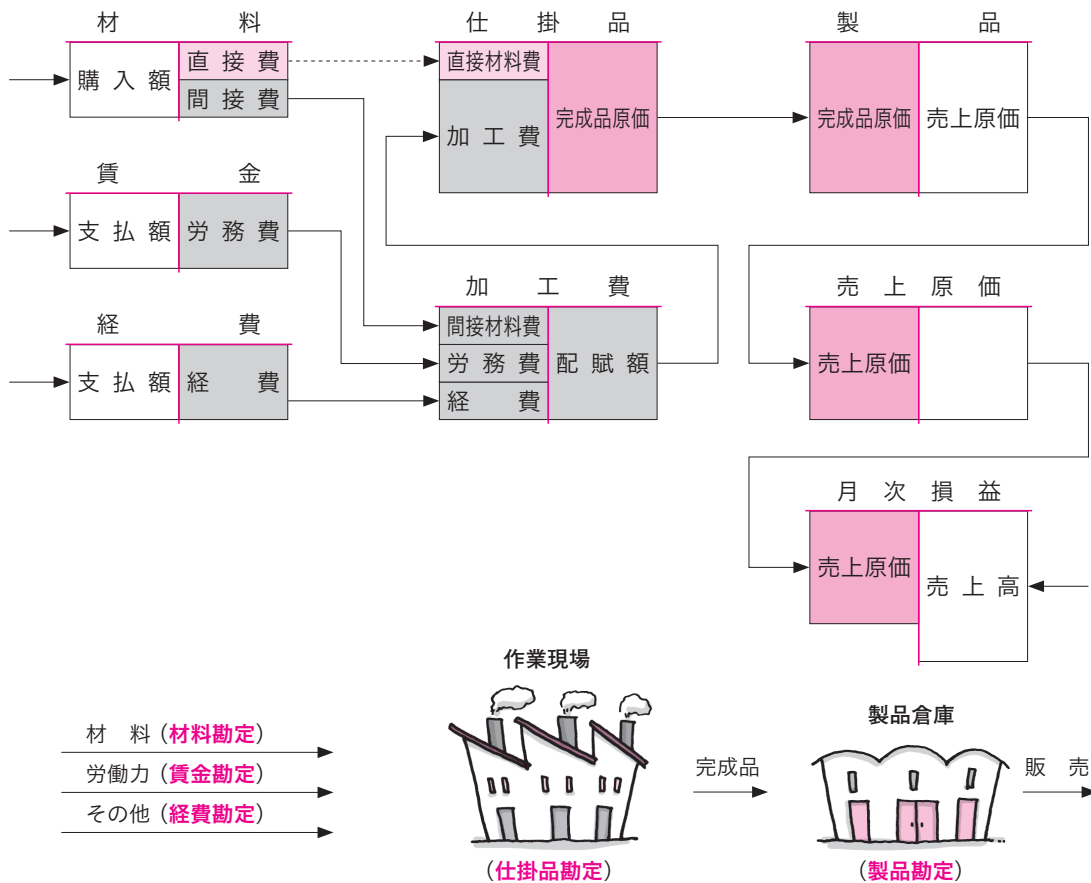
売 上 原 価	
製 品 ()	月次損益 ()

売 上	
月次損益 ()	売 掛 金 ()

2. 勘定連絡図（総合原価計算を用いている場合）

総合原価計算を用いている場合でも、基本的な勘定連絡図は個別原価計算を用いている場合と同じである。

総合原価計算においては、製造原価は直接材料費とそれ以外の製造原価である加工費という分類がなされるため、加工費を集計するための^{かこうひ}加工費勘定が設定される。詳しくは「テーマ12」から学習するが、参考までに、総合原価計算を用いている場合を前提とした勘定連絡図を示しておく。



ここが
POINT

工業簿記は工場全体の勘定連絡図を意識し、どんな問題を解いていくときでも、勘定連絡図（全体像）を思い浮かべながら学習することが重要である。

MEMO

Theme
02

工業
簿記
の
勘
定
連
絡

03 材料費(Ⅰ)

Theme

Check ここでは、材料費の計算のうち、その分類方法と購入時の処理について学習する。

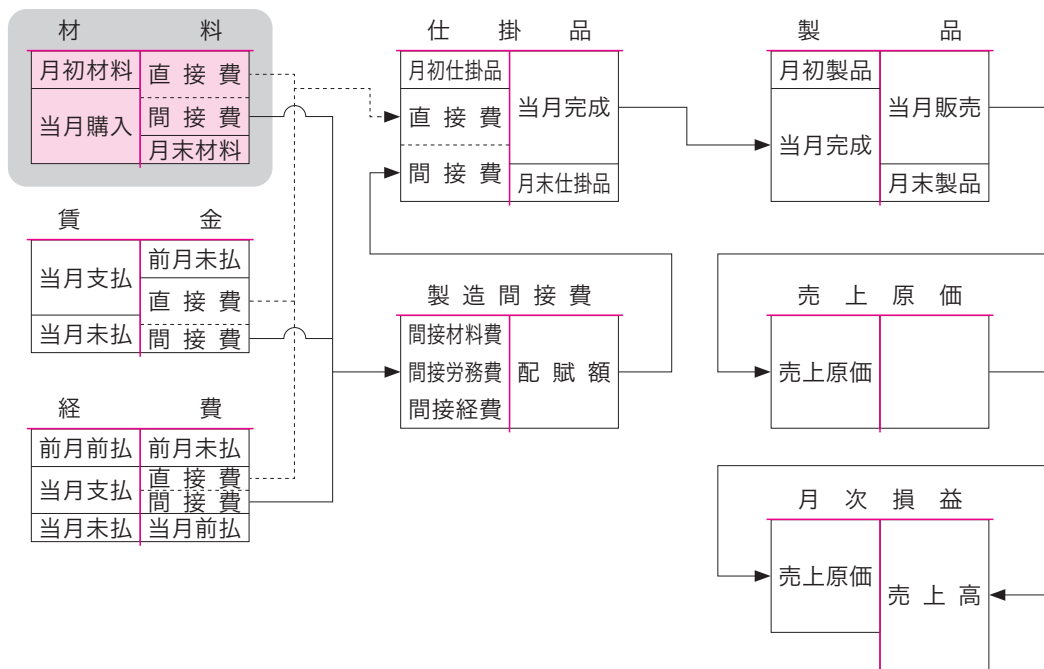
Date.1 / Date.2 / Date.3 /

1 材料費とは

製品を製造するために使われる物品を^{ざいりょう}材料といい、製品の製造のために材料を消費（使用）したときの消費額のことを^{ざいりょう ひ}材料費という。

2 勘定連絡図

「テーマ03 材料費(Ⅰ)」 「テーマ04 材料費(Ⅱ)」では、個別原価計算を前提とした勘定連絡図のうち、材料勘定の計算について学習する。



勘定連絡図のなかで、どの部分を詳しくみていくかを意識しながら学習することが重要である。

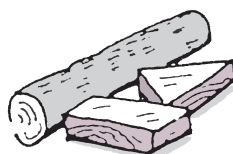
3 材料費の分類

1. 材料の種類と使われ方による分類

材料費を材料の種類と使われ方によって分類すると、次のようになる。

(1) 主要材料費（素材費または原料費ともいう）

家具製造業における木材，自動車製造業における銅板（薄い鉄板），パン製造業における小麦粉など，製品の本体となる物品を主要材料（素材または原料）といい，その消費額を^{しゅようざいりょうひ}主要材料費（^{そざいひ}素材費または^{げんりょうひ}原料費）という。主要材料は製品の本体となるものなので，製品の製造にとって最も重要な材料である。



(2) 買入部品費

家具製造業におけるガラス・鏡，自動車製造業におけるタイヤなど外部から購入され，そのまま製品の本体の一部として取り付けられる物品を買入部品といい，その消費額を^{かいいれぶひんひ}買入部品費という。買入部品も製品の本体の一部となるものであり，製品にとって重要な材料である。



(3) 補助材料費

補修用材料・接着材料・燃料など，製品の製造を間接的に補助するために消費される物品を補助材料といい，その消費額を^{ほじょざいりょうひ}補助材料費という。補助材料は，その消費額が製品ごとにいくらかかったかを個別に計算しにくい。



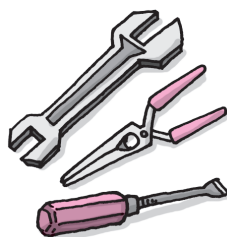
(4) 工場消耗品費

切削油・機械油・軍手・紙ヤスリ・電球・石けんなど，工場内において製品を製造するために消費される物品（消耗品）を工場消耗品といい，その消費額を^{こうじょうしょうひんひ}工場消耗品費という。工場消耗品は製品の本体となるわけではないので，その消費額が製品ごとにいくらかかったかを個別に計算できない。



(5) 消耗工具器具備品費

ハンマー・ドライバーなどの工具，物差しなどの器具，机・いす・黒板などの備品で，耐用年数が1年未満もしくは金額が一定額未満のものを消耗工具器具備品といい，その消費額を^{しょうこうこうぐきぐびんひ}消耗工具器具備品費という。消耗工具器具備品は製品の本体となるわけではないので，その消費額が製品ごとにいくらかかったかを個別に計算できない。



★supplement

工場消耗品費と消耗工具器具備品費

製品を製造するために使われる物品を材料といい、製品の製造のために材料を消費（使用）したときの消費額のことを材料費という。つまり、工場内で製品を製造するために使われる物品の消費額はすべて材料費となる。

工場消耗品や消耗工具器具備品は、それ自体が製品本体となるわけではないが、工場内で製品を製造するために使われる物品であるため、その消費額は材料費となる。

なお、工場消耗品と消耗工具器具備品は、受払記録を行わないため、一般的に、買入額を消費額とする。また、工場消耗品と消耗工具器具備品を併せて、**貯蔵品**ともいう。

2. 製品との関連による分類

材料費は、製品の（製造）原価を計算するうえで、特定の製品ごとに材料がどれくらい消費されたかを計算できるかどうかによって、直接材料費と間接材料費に分類される。

(1) 直接材料費

特定の製品ごとにどれくらい消費されたかが個別に計算できる材料費のことを**直接材料費**という。**主要材料費**、**買入部品費**が直接材料費となる。

(2) 間接材料費

各種の製品の製造のために共通に消費されるか、または特定の製品ごとにどれくらい消費されたかが個別に計算できない材料費のことを**間接材料費**という。**補助材料費**、**工場消耗品費**、**消耗工具器具備品費**が間接材料費となる。ただし、素材や原料であっても、機械の修繕などに用いられたときには間接材料費となる。

これらの分類をまとめると、次のようになる。

材 料 費	直接材料費	主 要 材 料 費
		買 入 部 品 費
	間接材料費	補 助 材 料 費
		工 場 消 耗 品 費
		消耗工具器具備品費

4 材料の購入（購入原価の計算）

製品を製造するために、材料はあらかじめ購入され材料倉庫に保管される。そして、必要に応じて製造現場に払い出される。

材料の消費額（材料費）の計算は、材料を購入したときの金額にもとづいて計算されるため、まずは材料の購入時の計算から学習しよう。

材料の購入には、**購入代価**（購入する材料の値段）のほかに**材料副費**（買入手数料、引取運賃、検収費など）がかかる。材料の**購入原価**は、購入代価に材料副費を加算して計算する。なお、材料の購入にあたり、その受入額は材料元帳という補助簿に記録される。

(注) 材料元帳とは商業簿記でいう商品有高帳と同一の形式であり、その記入方法も同じである。

(材	料)	××	(買掛金など)	××
購入原価 = 購入代価 + 材料副費				

(注) 材料を返品したときには、購入したときの貸借逆仕訳をする。

設例 3-1

次の取引について仕訳を示しなさい。

- (1) A材料 80kg (@ 125 円) を掛けで購入した。
- (2) B材料 100kg (@ 150 円) を掛けで購入した。なお、運送会社に対する引取運賃 500 円は現金で支払った。
- (3) C材料 50 個 (@ 500 円) を掛けで購入した。
- (4) C材料のうち 5 個は不良品のため返品した。

〈解答・解説〉

(1)	(材	料)	10,000	(買	掛	金)	10,000
(2)	(材	料)	15,500	(買	掛	金)	15,000
				(現		金)	500
(3)	(材	料)	25,000	(買	掛	金)	25,000
(4)	(買	掛	金)	2,500	(材	料)	2,500

基本例題 03

解答・解説 277 ページ

次の取引の仕訳を行い、与えられた勘定の () 内に適当な金額を記入しなさい。

A材料 80kg @ 120 円を掛けで購入した。なお、運送会社に対する引取運賃 400 円は小切手を振り出して支払った。

〔指定勘定科目〕 当座預金、材料、買掛金

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

材 料

諸 口 ()

★supplement

材料の購入原価の計算

(1) 材料の購入代価と材料副費

材料の購入原価（取得原価）は、理論的には、材料の購入から製造現場へ出庫できる状態になるまでにかかった、材料に関するすべての原価の合計額である。

ここに含まれる金額には**購入代価**（材料主費）と**材料副費**（付随費用）がある。

① 購入代価

購入する材料の値段であり、仕入先に支払う代価をいう。たとえば材料の送り状価額から、値引きや割り戻しがあるときには、それらを控除した金額が購入代価となる。

② 材料副費

材料の購入から出庫できる状態になるまでにかかった付随費用であり、**外部材料副費**と**内部材料副費**に分けられる。

(a) 外部材料副費

買入手数料、引取運賃、荷役費、移送中の保険料、輸入した場合の関税など、材料が企業に到着するまでに材料に関してかかる付随費用のことであり、**材料引取費用**ともいう。

(b) 内部材料副費

企業内部での材料に関連する購入事務や材料到着時の検収、整理、保管のためにかかる付随費用のことであり、**材料取扱保管費**ともいう。



(2) 材料購入原価の計算

材料購入原価を計算する際には、理論的には購入代価にすべての材料副費を加える。しかし、実際には材料副費の集計に時間がかかり、なかなか材料の購入原価の決定ができないといった問題が生じるため、次のいずれかにより計算する。

購入原価 = 購入代価 + 外部材料副費 + 内部材料副費(の一部)

購入原価 = 購入代価 + 外部材料副費

なお、材料副費を材料の購入原価に加算する方法には、実際発生額を加算する方法のほかに予定配賦額を加算する方法がある。

5 材料副費の予定計算（予定配賦）

材料副費（付随費用）を材料の購入原価に算入する場合に、材料副費を予定額をもって計算（予定配賦）することがある。

なお、初学の際、この論点は概要を確認する程度の学習でよい。「テーマ09 個別原価計算（Ⅱ）」の学習が終了したところで立ち戻り、じっくり学習するとよい。

設例 3-2

次の取引について仕訳を示しなさい。なお、当工場では材料の受入れに際して、材料の購入代価の5%を材料副費として予定配賦している。

- (1) 材料を掛けで購入した。材料の購入代価は50,000円であり、材料副費については購入代価の5%を予定配賦した。
- (2) 当月の材料副費の実際発生額3,000円を現金で支払った。
- (3) 材料副費の予定配賦額と実際発生額の差額を材料副費差異勘定へ振り替えた。
- (4) 材料副費差異は、会計年度末にはその残高を売上原価勘定に振り替える。

〈解答・解説〉

(1) 予定配賦額の計算

(材 料)	52,500	(買 掛 金)	50,000
		(材 料 副 費)	2,500

$$\text{予定配賦額} : \underbrace{50,000 \text{ 円}}_{\text{購入代価}} \times \underbrace{5\%}_{\text{予定配賦率}} = 2,500 \text{ 円}$$

(2) 実際発生額の計算

(材 料 副 費)	3,000	(現 金)	3,000
-----------	-------	-------	-------

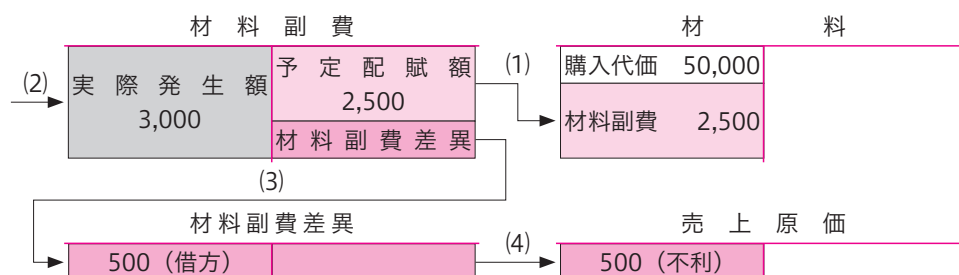
(3) 材料副費差異の計上

(材 料 副 費 差 異)	500	(材 料 副 費)	500
---------------	-----	-----------	-----

$$\text{材料副費差異} : \underbrace{2,500 \text{ 円}}_{\text{予定配賦額}} - \underbrace{3,000 \text{ 円}}_{\text{実際発生額}} = \triangle 500 \text{ 円 (借方差異)}$$

(4) 売上原価に賦課

(売 上 原 価)	500	(材 料 副 費 差 異)	500
-----------	-----	---------------	-----



04 材料費(Ⅱ)

T h e m e

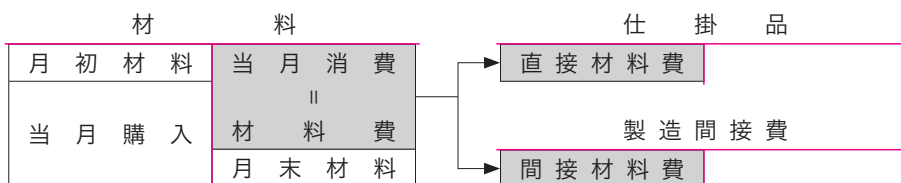
Check

ここでは、材料費の計算のうち、材料の消費額の計算と月末材料の管理について学習する。

Date.1 / Date.2 / Date.3 /

1 材料の消費（材料費の計算）

材料の消費額（材料費）は、**直接材料費**と**間接材料費**に分類され、直接材料費は**仕掛品勘定**へ、間接材料費は**製造間接費勘定**へ振り替えられる。



なお、材料費は材料の実際消費数量に実際消費単価（価格）を掛けて計算する。

$$\text{材料費} = \text{実際消費数量} \times \text{実際消費単価(価格)}$$

1. 実際消費数量の計算

材料の実際消費数量の計算方法には、継続記録法と棚卸計算法がある。なお、原則として継続記録法によって計算する。

(1) 継続記録法

けいぞく きろくほう

継続記録法

とは、材料の購入や払い出しのつど、材料の種類ごとにその購入数量や払出数量を材料元帳に記入し、帳簿に記入された払出数量を実際消費数量とする方法である。

$$\text{実際消費数量} = \text{帳簿に記入された払出数量}$$

この方法は帳簿上いつでも消費数量や在庫数量がわかり、また、月末に实地棚卸を行うことで、帳簿上あるはずの在庫数量（帳簿棚卸数量）と実際の在庫数量（实地棚卸数量）とを比較して、保管中の盗難・紛失などにより生じた材料の減少分を知ることができる。この材料の減少を**たなおろしげんもう 棚卸減耗**という。

(2) 棚卸計算法

たな卸しけいさんぽう
棚卸計算法

とは、材料の払い出しのつどの記入は行わず、購入記録と月末の実地棚卸にもとづいて実際消費数量を決定する方法である。

$$\text{実際消費数量} = (\text{月初数量} + \text{当月購入数量}) - \text{月末実地数量}$$

この方法は、記帳の手間は省けるが、保管中に生じた棚卸減耗を知ることができないという欠点がある。継続記録法が困難な材料や重要性の乏しい材料に適用される。

〈継続記録法〉

月初数量	当月消費数量 (払出数量)
当月購入数量	棚卸減耗 月末数量 (実地棚卸数量)
月末数量 (帳簿棚卸数量)	

〈棚卸計算法〉

月初数量	当月消費数量
当月購入数量	月末数量 (実地棚卸数量)

設例 4-1

継続記録法により実際消費数量を計算しているA材料の月初数量は20kg、月間の購入数量は80kg、月間の材料払出数量は70kgであった。また、月末にA材料の実地棚卸を行ったところ、月末実地数量は28kgであることがわかった。

A材料の当月の実際消費数量および棚卸減耗数量を計算しなさい。

〈解答・解説〉

A材料の当月実際消費数量：70kg

A材料の当月棚卸減耗数量：2kg

材料〈継続記録法〉

月初数量 20kg	当月消費数量 (払出数量) 70kg
当月購入数量 80kg	棚卸減耗 2kg 実地棚卸数量 28kg
月末数量 (帳簿棚卸数量) 30kg	

基本例題 04

解答・解説277ページ

棚卸計算法により実際消費数量を計算しているB材料の月初数量は20kg、月間の購入数量は80kg、月末実地数量は28kgであった。当月の実際消費数量を計算しなさい。

2. 実際消費単価（価格）の計算

材料の実際消費単価は、原則として材料の実際購入原価にもとづいて計算する。

なお、同じ材料でも購入時期や仕入先によって購入単価が異なるので、平均法（総平均法、移動平均法）や先入先出法などの方法により材料の消費単価を決定する。

ただし、継続性の観点から、一度採用した計算方法を正当な理由なく変更してはならない。

設例 4-2

次の資料にもとづいて、A材料の当月消費額を(1)平均法、(2)先入先出法により計算しなさい。

(資 料)

A材料の月初有高は20kg@100円、月間の購入高は80kg@125円、月間の材料払出数量は70kgであった。

〈解答・解説〉

(1) 平均法

平均法とは、一定期間に購入した材料の数量と金額をもとに平均単価を計算し、この平均単価をもって消費単価とする方法である。

$$\text{平均単価} : \frac{20\text{kg} \times @100\text{円} + 80\text{kg} \times @125\text{円}}{20\text{kg} + 80\text{kg}} = @120\text{円}$$

材 料	
20kg @ 100円	70kg
80kg @ 125円	8,400円
	30kg

当月消費額：@120円×70kg=8,400円

(2) 先入先出法

先入先出法とは、先に購入した材料から先に消費したものと仮定して消費単価を決定する方法である。

材 料	
20kg @ 100円	20kg 2,000円
80kg @ 125円	50kg 6,250円
	30kg

当月消費額：@100円×20kg + @125円×50kg
= 8,250円

(注) 材料元帳（商品有高帳と同一の形式）を書いて計算することもできるが、工業簿記では、通常、このような材料勘定を図解したボックス図を書いて計算することが多い。

基本例題05

解答・解説277ページ

次の受払記録にもとづいて、(1)平均法、(2)先入先出法によってC材料の当月消費額を計算しなさい。なお、C材料は継続記録法により消費数量を計算している。

(受払記録)

月初在庫量 400kg @ 42円 16,800円
 月間買入高 1,600kg @ 45円 72,000円
 月間払出高 1,500kg

基本例題06

解答・解説277ページ

次の取引の仕訳を行い、与えられた勘定の（ ）内に適当な金額を記入しなさい。

〔指定勘定科目〕買掛金、材料、仕掛品、製造間接費

- (1) A材料80kg@125円を掛けで購入した。
 (2) A材料を次のように消費した。なお、材料費の計算は平均法による。また、前月繰越分は20kg@100円であった。
 直接材料分 65kg
 間接材料分 5kg

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)				
(2)				

材 料		仕 掛 品	
前月繰越 2,000	諸 口()	材 料()	
買 掛 金()	次 月 繰 越()		
()	()	製 造 間 接 費	
		材 料()	

Theme
04

材
料
費
(Ⅱ)

2 予定消費単価を用いた場合（予定価格法）

1. 予定消費単価（価格）を用いる計算

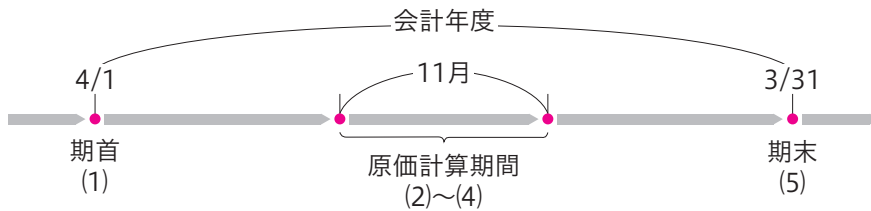
材料の消費額の計算において、その消費単価は材料の実際購入原価にもとづいて（平均法などにより）計算された実際消費単価を用いるのが原則であるが、これには次のような欠点がある。

- (1) 実際消費単価は、その計算に手間と時間がかかることで材料費の計算が遅れてしまう。
 (2) 材料の購入原価が季節による変動が激しいと、同じ材料を使って製造した製品でもその製造時期によりまったく異なった材料費が計算されてしまう。

そこで1年間の材料の消費単価を決定（予定）して、この^{よていしょうひたんか}予定消費単価（^{かかく}価格）を用いて毎月の材料の消費額を計算する方法がある。これを^{よていかかくほう}予定価格法という。

2. 計算手続

材料の消費額の計算に予定消費単価を用いる場合の計算手続は、次のとおりである。



(1) 予定消費単価の決定（会計年度期首）

通常、会計年度期首に材料の**予定消費単価**を決定する。

(2) 予定消費額の計算（各原価計算期間）

材料の予定消費単価に実際消費数量を掛けて**予定消費額**を計算する。

$$\text{予定消費額} = \text{予定消費単価} \times \text{実際消費数量}$$

(仕 掛 品)	× ×	(材 料)	× ×
(製 造 間 接 費)	× ×		

(3) 実際消費額の計算（各原価計算期間）

平均法や先入先出法などの方法により、材料の**実際消費額**を計算する。

(4) 材料消費価格差異の計上（各原価計算期間）

材料の予定消費額と実際消費額との差額から**材料消費価格差異**を把握する。

$$\begin{aligned} \text{材料消費価格差異} &= \text{予定消費額} - \text{実際消費額} \\ &= (\text{予定消費単価} - \text{実際消費単価}) \times \text{実際消費数量} \end{aligned}$$

なお、材料消費価格差異のほかにも労務費や製造間接費の計算などでも差異が生じることがあるが、これらの差異をまとめて**原価差異**という。

予定消費額 < 実際消費額の場合

(材料消費価格差異)	× ×	(材 料)	× ×
------------	-----	-------	-----

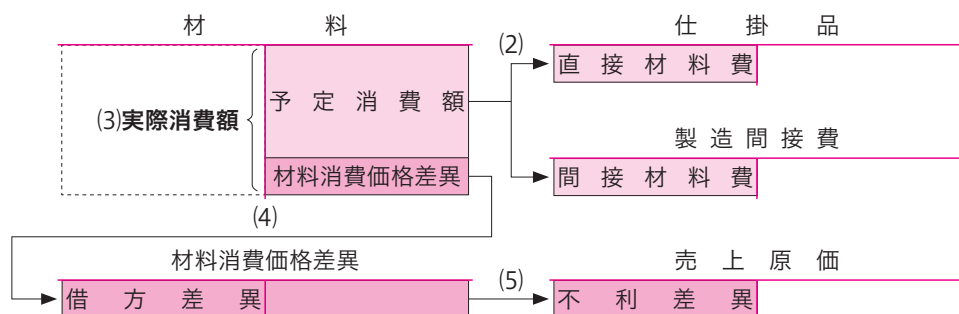
(5) 売上原価に賦課（会計年度末）

材料消費価格差異は原則として、会計年度末において、売上原価に加減算する（**売上原価に賦課**する）。

予定消費額 < 実際消費額の場合

(売 上 原 価)	× ×	(材料消費価格差異)	× ×
-----------	-----	------------	-----

〈勘定連絡図〉



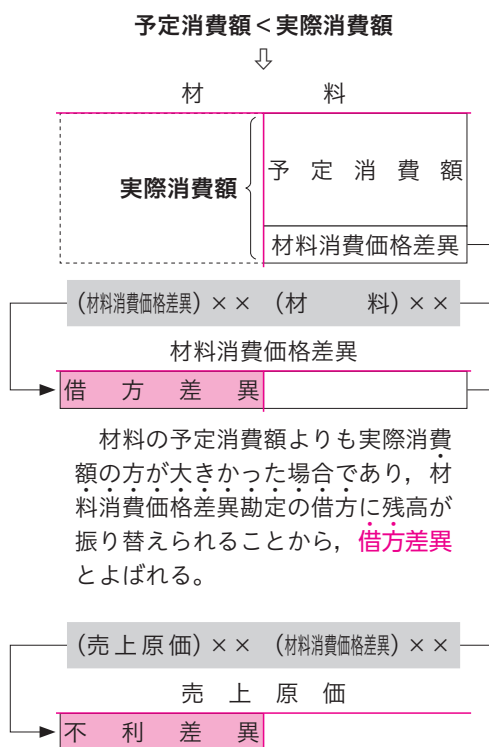
(注1) 借方差異 (不利差異) の場合

(注2) 材料の消費額を計算するのに消費材料勘定 (または材料費勘定) を設ける方法もある。

3. 材料消費価格差異 (原価差異)

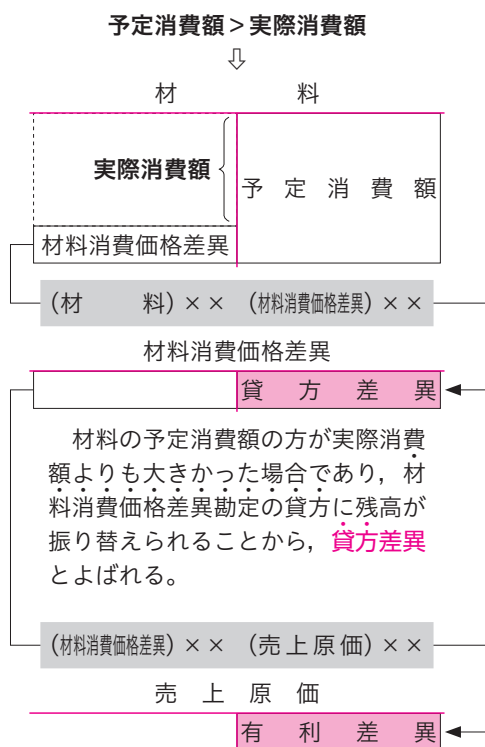
予定消費額と実際消費額との差額として材料消費価格差異 (原価差異) が生じるが、これには **借方差異 (不利差異)** の場合と、**貸方差異 (有利差異)** の場合とがある。

(1) 借方差異 (不利差異) の場合



予定消費額で計算した材料費よりも実際にはもっと材料費がかかっているということから**不利差異**ともよばれ、会計年度末に不利差異は売上原価に加算される。

(2) 貸方差異 (有利差異) の場合



予定消費額で計算した材料費よりも実際には少ない材料費ですんでいるということから**有利差異**ともよばれ、会計年度末に有利差異は売上原価から減算される。

設例 4-3

次の取引について仕訳を示しなさい。なお、当工場ではA材料の計算に予定消費単価を用いており、予定消費単価はA材料1kgあたり110円である。

(1) 予定消費額の計算

A材料の予定消費額は7,700円（@110円×70kg）であり、このうち7,150円（@110円×65kg）が直接材料費、550円（@110円×5kg）が間接材料費であった。

(2) 実際消費額の計算

A材料の実際消費額は8,400円であった。

(3) 材料消費価格差異の計上

材料の予定消費額と実際消費額との差額を材料消費価格差異勘定へ振り替えた。

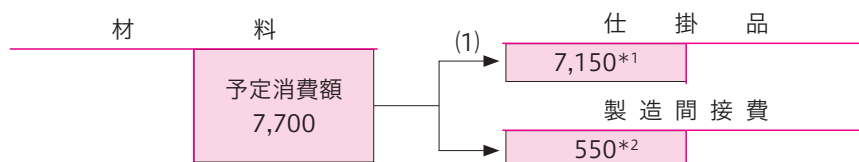
(4) 売上原価に賦課

材料消費価格差異は、会計年度末にはその残高を売上原価勘定に振り替える。

〈解答・解説〉

(1) 予定消費額の計算

(仕 掛 品)	7,150	(材 料)	7,700
(製 造 間 接 費)	550		

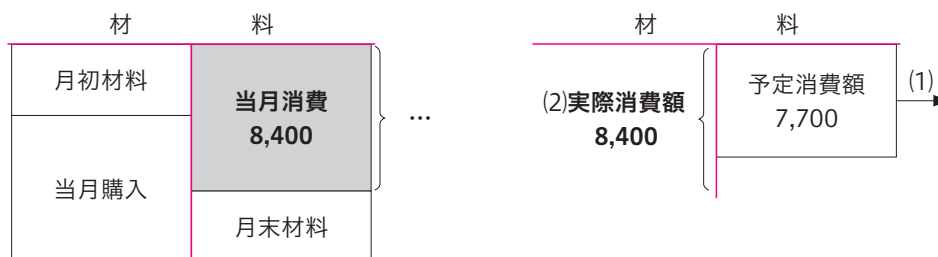


*1 直接費：@110円 × 65kg = 7,150円
予定消費単価 実際消費数量

*2 間接費：@110円 × 5kg = 550円
予定消費単価 実際消費数量

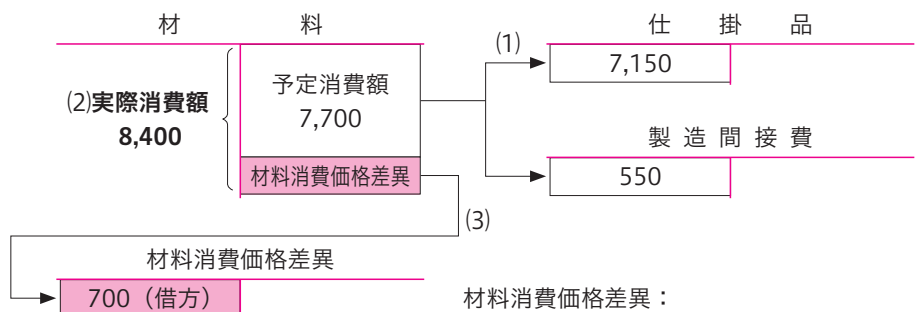
(2) 実際消費額の計算

仕 訳 な し	
---------	--



(3) 材料消費価格差異の計上

(材料消費価格差異)	700	(材 料)	700
------------	-----	-------	-----



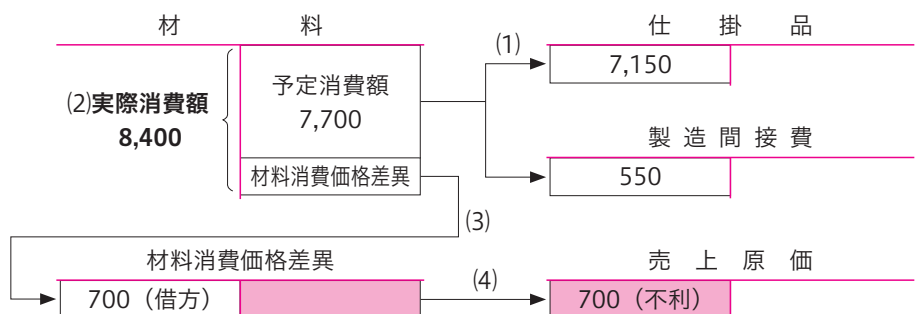
材料消費価格差異：

$$7,700 \text{ 円} - 8,400 \text{ 円} = \triangle 700 \text{ 円 (借方差異)}$$

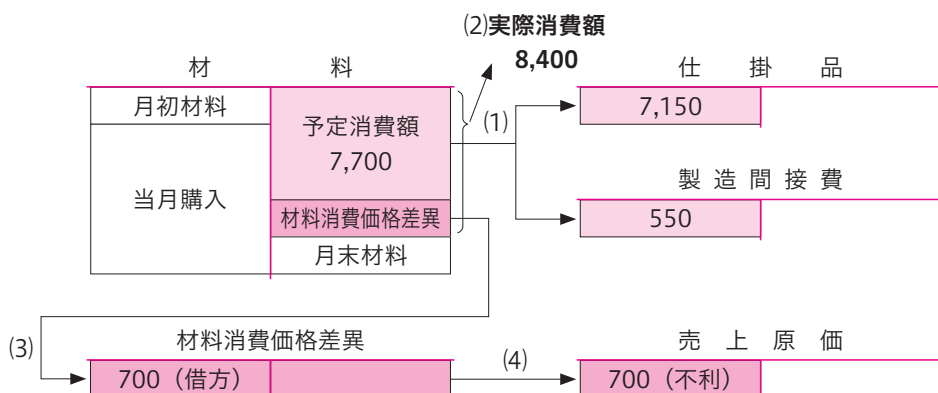
予定消費額 実際発生額

(4) 売上原価に賦課

(売上原価)	700	(材料消費価格差異)	700
--------	-----	------------	-----



〈勘定連絡図〉



ここが
POINT

原価差異は、借方差異（不利差異）または貸方差異（有利差異）を明示しなければならない。なお、予定消費額から実際消費額を差し引いてマイナスの金額なら借方差異（不利差異）、プラスの金額なら貸方差異（有利差異）と判断するとよい。

なお、原価差異の基本的な考え方は、すべて同様である。

基本例題07

解答・解説278ページ

次の取引の仕訳を行い、与えられた勘定の（ ）内に適当な金額を記入しなさい。

〔指定勘定科目〕

買掛金、材料、仕掛品、製造間接費、材料消費価格差異

- (1) A材料80kg@125円を掛けで購入した。
- (2) A材料を次のように消費した。なお、予定価格は@110円である。
直接材料分 65kg
間接材料分 5kg
- (3) A材料の実際消費額を平均法で計算した。なお、前月繰越分は20kg@100円であった。よって、材料の予定消費額と実際消費額との差額を材料消費価格差異勘定へ振り替えた。

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

材 料		仕 掛 品	
前月繰越	2,000	諸 口()	材 料()
買 掛 金()		材料消費価格差異()	
		次 月 繰 越()	
	()		製 造 間 接 費
		材 料()	
材料消費価格差異			
材 料()			

3 月末材料の管理（棚卸減耗費の計算）

材料の消費数量の計算において継続記録法を採用している場合には、いつでも材料の帳簿上の在庫数量がわかり、月末に実地棚卸を行うことで棚卸減耗の発生を知ることができる。この棚卸減耗の発生額を^{たなおろいげんもう ひ}棚卸減耗費といい、次の式で計算する。

$$\text{棚卸減耗費} = \text{帳簿棚卸高} - \text{実地棚卸高}$$

棚卸減耗は正常な量（毎期決まって発生する程度の量）であれば、製品を製造するために材料を保管していたことが原因で発生したと考え、月末にその発生額（棚卸減耗費）を計算して（製造）原価に含める。なお、棚卸減耗費は物品や労働力の消費ではなく、特定の製品ごとにどれくらい消費されたかが個別に計算できないため、**間接経費**として**製造間接費勘定**へ振り替える。

（棚 卸 減 耗 費）	× ×	（材 料）	× ×
（製 造 間 接 費）	× ×	（棚 卸 減 耗 費）	× ×

上記の仕訳における「棚卸減耗費」を相殺して、1本の仕訳でまとめると、次のようになる。

（製 造 間 接 費）	× ×	（材 料）	× ×
-------------	-----	-------	-----

設例 4-4

A材料の月末帳簿棚卸高は3,600円（30kg×@120円）であった。また、月末にA材料の実地棚卸を行ったところ、月末実地在庫量は28kgであることがわかった。材料の棚卸減耗は正常な数量である。棚卸減耗についての仕訳を示しなさい。

〈解答・解説〉

当月の棚卸減耗量：30kg－28kg＝2kg

当月の棚卸減耗費：@120円×2kg＝240円

（製 造 間 接 費）	240	（材 料）	240
-------------	-----	-------	-----

基本例題08

解答・解説278ページ

次の取引について仕訳を示しなさい。なお、材料費の計算は平均法による。

〔指定勘定科目〕

材料，仕掛品，製造間接費，買掛金

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

- (1) A材料80kg@125円を掛けで購入した。
- (2) A材料を次のように消費した。また、前月繰越分は20kg@100円であった。
直接材料分 65kg
間接材料分 5 kg
- (3) A材料の月末実地在庫量は28kgであった。なお、棚卸減耗は正常な数量である。

日商簿記**2**級

工 業

簿 記

基 本 例 題

解 答 ・ 解 説

基本例題01

- 〔1〕 工場電力料・ガス代・水道代
- 〔2〕 新製品を販売するための広告費
- 〔1〕 工場事務職員給料
- 〔3〕 本社事務職員給料
- 〔1〕 製品の素材消費額

基本例題02

(1) ① (材 料)	5,000	(買 掛 金)	5,000
② (賃 金)	5,500	(現 金)	5,500
③ (経 費)	3,600	(現 金)	3,600
(2) ① (仕 掛 品)	3,500	(材 料)	5,000
(製 造 間 接 費)	1,500		
② (仕 掛 品)	4,000	(賃 金)	5,500
(製 造 間 接 費)	1,500		
③ (製 造 間 接 費)	3,600	(経 費)	3,600

(注) 参考までに、(2)の①～③の仕訳をまとめると次のようになる。

(仕 掛 品)	7,500	(材 料)	5,000
(製 造 間 接 費)	6,600	(賃 金)	5,500
		(経 費)	3,600

(3) (仕 掛 品)	6,600	(製 造 間 接 費)	6,600
(4) (製 品)	14,100	(仕 掛 品)	14,100
(5) (売 掛 金)	20,000	(売 上)	20,000
(売 上 原 価)	14,100	(製 品)	14,100
(6) (売 上)	20,000	(月 次 損 益)	20,000
(月 次 損 益)	14,100	(売 上 原 価)	14,100

材 料	
買 掛 金 (5,000)	諸 口 (5,000)

賃 金	
現 金 (5,500)	諸 口 (5,500)

経 費	
現 金 (3,600)	製造間接費 (3,600)

仕 掛 品	
材 料 (3,500)	製 品 (14,100)
賃 金 (4,000)	
製造間接費 (6,600)	
(14,100)	(14,100)

製 造 間 接 費	
材 料 (1,500)	仕 掛 品 (6,600)
賃 金 (1,500)	
経 費 (3,600)	
(6,600)	(6,600)

製 品		売 上 原 価	
仕 掛 品 (14,100)	売上原価 (14,100)	製 品 (14,100)	月次損益 (14,100)
月 次 損 益		売 上	
売上原価 (14,100)	売 上 (20,000)	月次損益 (20,000)	売 掛 金 (20,000)

(注)「諸口」に代えて、個々の相手科目を記入することもある。

基本例題03

(材 料)	10,000	(買 掛 金)	9,600
		(当 座 預 金)	400

材 料	
諸 口 (10,000)	

基本例題04

B 材料の当月実際消費数量 72kg * 当月実際消費数量：(20kg + 80kg) - 28kg = 72kg

基本例題05

(1) 平 均 法 66,600円 * 平均単価： $\frac{42 \times 400 + 45 \times 1,600}{400 + 1,600} = 44.4$ 円

当月消費額：44.4円 × 1,500kg = 66,600円

(2) 先入先出法 66,300円 * 当月消費額：42円 × 400kg + 45円 × 1,100kg = 66,300円

基本例題06

(1) (材 料)	10,000	(買 掛 金)	10,000
(2) (仕 掛 品)	7,800	(材 料)	8,400
(製 造 間 接 費)	600		

材 料		仕 掛 品	
前月繰越 2,000	諸 口 (8,400)	材 料 (7,800)	
買 掛 金 (10,000)	次月繰越 (3,600)		
(12,000)	(12,000)		
		製 造 間 接 費	
		材 料 (600)	

* 直接材料費：120円 × 65kg = 7,800円 間接材料費：120円 × 5kg = 600円

(注) この基本例題は、[設例3-1, 4-1, 4-2] を総合問題形式で問い直したものである。本例題を解くことで、これまでの一連の手続きをもう一度確認してほしい。

基本例題07

(1)	(材 料)	10,000	(買 掛 金)	10,000
(2)	(仕 掛 品)	7,150	(材 料)	7,700
	(製 造 間 接 費)	550		
(3)	(材料消費価格差異)	700	(材 料)	700

材 料		仕 掛 品	
前月繰越	2,000	諸 口 (7,700)	材 料 (7,150)
買 掛 金 (10,000)		材料消費価格差異 (700)	
		次 月 繰 越 (3,600)	
	(12,000)		製 造 間 接 費
		(12,000)	材 料 (550)
材料消費価格差異			
材 料 (700)			

(注) この基本例題は、[設例3-1, 4-1~4-3]を総合問題形式で問い直したものである。
本例題を解くことで、これまでの一連の手続きをもう一度確認してほしい。

基本例題08

(1)	(材 料)	10,000	(買 掛 金)	10,000
(2)	(仕 掛 品)	7,800	(材 料)	8,400
	(製 造 間 接 費)	600		
(3)	(製 造 間 接 費)	240	(材 料)	240

基本例題09

(賃 金)	340,000	(現 金)	290,000
		(預 り 金)	50,000
賃 金			
諸 口 (340,000)			

基本例題10

(1)	(未 払 賃 金)	60,000	(賃 金)	60,000
(2)	(賃 金)	340,000	(現 金)	290,000
			(預 り 金)	50,000
(3)	(仕 掛 品)	315,000	(賃 金)	346,500
	(製 造 間 接 費)	31,500		
(4)	(賃 金)	66,500	(未 払 賃 金)	66,500

.....

問題編

.....

合格トレーニング

日商簿記 2 級 工業簿記

問題1-1 ★★★

理解度チェック

☐☐☐

下記の項目について、製造原価となる項目には1を、販売費となる項目には2を、一般管理費となる項目には3を〔 〕の中に記入しなさい。

▼解答欄

- ①〔 〕 工場の工具に対する賃金
- ②〔 〕 工場で使用した電話料金
- ③〔 〕 本社の電気代，ガス代，水道代
- ④〔 〕 工場建物の減価償却費
- ⑤〔 〕 製品の原料消費額
- ⑥〔 〕 営業所の電気代，ガス代，水道代
- ⑦〔 〕 本社の従業員の給料
- ⑧〔 〕 新製品発表会の費用
- ⑨〔 〕 本社の企画部費
- ⑩〔 〕 製品の素材消費額
- ⑪〔 〕 本社建物の減価償却費
- ⑫〔 〕 営業所の従業員の給料
- ⑬〔 〕 工場長の給料
- ⑭〔 〕 工場の電気代，ガス代，水道代
- ⑮〔 〕 営業所建物の減価償却費

解答(3)ページ

02 工業簿記の勘定連絡

理解度チェック

問題2-1 ★★★

☐ ☐ ☐

次の取引について仕訳し、与えられた勘定に転記しなさい。なお、勘定は締め切らなくてよい。

〈指定勘定科目〉現金、当座預金、売掛金、買掛金、材料、賃金、経費、製造間接費、仕掛品、製品、売上、売上原価、月次損益

- (1) 材料57,000円を掛けで購入した。
- (2) 材料を次のとおり消費した。
直接材料費 40,000円 間接材料費 17,000円
- (3) 当月の賃金70,000円を現金で支払った。
- (4) 賃金を次のとおり消費した。
直接労務費 50,000円 間接労務費 20,000円
- (5) 当月の経費23,000円を小切手を振り出して支払った。
- (6) 経費を次のとおり消費した。
直接経費 5,000円 間接経費 18,000円
- (7) 製造間接費をすべて仕掛品勘定に振り替えた。
- (8) 当月の製品完成高は126,000円であった。
- (9) 上記製品を210,000円で掛け売りした。
- (10) 売上高および売上原価を月次損益勘定に振り替えた。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

(6)				
(7)				
(8)				
(9)				
(10)				

材 料

--	--

賃 金

--	--

経 費

--	--

製 品

--	--

月 次 損 益

--	--

仕 掛 品

製 造 間 接 費

売 上 原 価

--	--

売 上

--	--

解答(4)ページ

問題2-2 ★★★

☐ ☐ ☐

次の取引について仕訳し、与えられた勘定に転記しなさい。また、締め切りのできる勘定は締め切りなさい。

〈指定勘定科目〉現金、当座預金、売掛金、買掛金、材料、賃金給料、経費、製造間接費、仕掛品、製品、売上、売上原価、月次損益

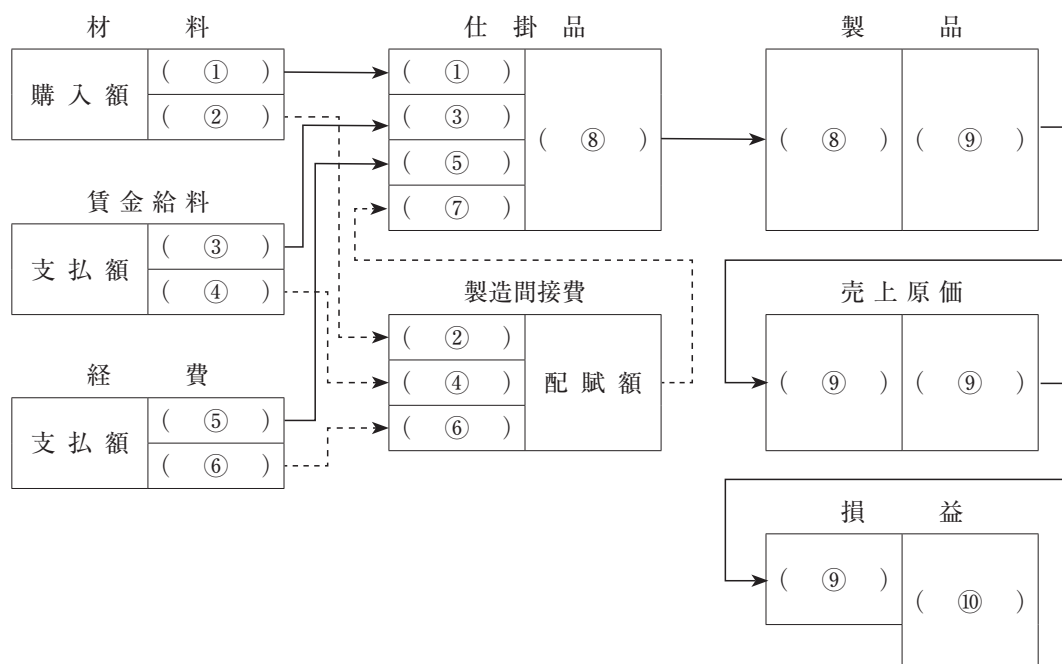
- (1) 材料の仕入高（現金払い） 120,000円
- (2) 材料の消費高：直接材料費 80,000円 間接材料費 30,000円
- (3) 賃金給料の支払高（現金払い） 180,000円
- (4) 賃金給料の消費高：直接労務費 140,000円 間接労務費 35,000円
- (5) 経費の支払高（小切手振出し） 160,000円
- (6) 経費の消費高：直接経費 50,000円 間接経費 100,000円
- (7) 製造間接費の配賦高 165,000円
- (8) 完成品の製造原価 400,000円
- (9) 製品売上高（掛け） 600,000円
売上製品の製造原価 360,000円
- (10) 売上高、売上原価を月次損益勘定に振り替えた。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				
(8)				

問題2-3 ★★★

下記の勘定連絡図の（ ）内に入る適切な語句を語群より選択し，記号で答えなさい。



〈語 群〉

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| a 直接労務費 | b 完成品原価 | c 売上原価 | d 製造間接費 |
| e 間接経費 | f 直接材料費 | g 間接労務費 | h 直接経費 |
| i 間接材料費 | j 売上高 | | |

▼ 解答欄

①		②		③		④		⑤	
⑥		⑦		⑧		⑨		⑩	

03 材料費(Ⅰ)

問題3-1 ★★★

理解度チェック

☐ ☐ ☐

次の項目を直接材料費と間接材料費に分類し、その頭につけた番号で答えなさい。

- | | | |
|----------|---------|-------------|
| ① 工場消耗品費 | ② 買入部品費 | ③ 消耗工具器具備品費 |
| ④ 素 材 費 | ⑤ 補助材料費 | ⑥ 原 料 費 |

▼ 解答欄

直接材料費

間接材料費

解答(9)ページ

問題3-2 ★★★

理解度チェック

☐ ☐ ☐

下記の材料費について、直接材料費となる項目には1を、間接材料費となる項目には2を〔 〕の中に記入しなさい。

▼ 解答欄

- ① 〔 〕 製品にそのまま取り付ける部品の消費額
- ② 〔 〕 工場で使用するドライバーや測定器具などの作業工具・器具
- ③ 〔 〕 製造用の切削油、機械油などの消費額
- ④ 〔 〕 製品の本体を構成する素材の消費額
- ⑤ 〔 〕 工場で利用する黒板、机、椅子
- ⑥ 〔 〕 工場で使用する燃料の消費額
- ⑦ 〔 〕 工場で使用する電球や蛍光灯
- ⑧ 〔 〕 補修用鋼材の消費額
- ⑨ 〔 〕 工具が製造用に使用する作業服や軍手
- ⑩ 〔 〕 製品を製造するための原料の消費額

解答(9)ページ

問題3-3 ★★★

☐ ☐ ☐

次の5月中の取引について仕訳を行うとともに、材料勘定に転記しなさい。なお、勘定を締め切る必要はない。

〈指定勘定科目〉現金，材料，買掛金

5 / 2 A材料2,500kg（@300円）を掛けで購入した。

5 / 11 B材料500個（@900円）を掛けで購入した。なお，引取運賃4,000円は現金で支払った。

5 / 19 C材料1,200kg（@150円）を掛けで購入した。

5 / 28 C材料のうち200kgは品違いのため返品した。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
5 / 2				
5 / 11				
5 / 19				
5 / 28				

材 料	
5 / 1 前 月 繰 越	246,000

04 材料費(Ⅱ)

問題4-1 ★★

理解度チェック

☐ ☐ ☐

次の資料にもとづいて、直接材料費および間接材料費を計算しなさい。

前月繰越高	200個	@350円	70,000円
当月購入高	2,800個	@350円	980,000円
当月消費高	1,200個（甲製品の製造のために消費）		
	900個（乙製品の製造のために消費）		
	500個（各製品の製造のために共通に消費）		

▼ 解答欄

直接材料費

 円

間接材料費

 円

解答(10)ページ

問題4-2 ★★

理解度チェック

☐ ☐ ☐

次の資料にもとづいて、主要材料Aの月間消費額および帳簿棚卸高を計算し、材料勘定の記入を完成させなさい。なお、主要材料Aは継続記録法によって消費数量を計算している。

月初在庫高	100kg	@200円	20,000円
月間買入高	900kg	@200円	180,000円
月間払出高	850kg（すべて直接材料として消費した。）		

▼ 解答欄

月間消費額

 円

帳簿棚卸高

 円

材			料		
前月繰越	()		仕掛品	()	
当月購入	()		次月繰越	()	
	()			()	

解答(10)ページ

問題4-3 ★★★

次の資料にもとづいて、補助材料Bの月間消費額を計算し、材料勘定の記入を完成させなさい。なお、補助材料Bは、すべて間接材料として消費され、棚卸計算法により計算している。

月初在庫高	50kg	@150円	7,500円
月間買入高	400kg	@150円	60,000円
月末実地棚卸量	70kg		

▼解答欄

月間消費額

円

材		料	
前月繰越	()	製造間接費	()
当月購入	()	次月繰越	()
	()		()

解答<10>ページ

問題4-4 ★★★

次の資料にもとづいて、(1)先入先出法、(2)平均法によって材料の当月消費額を計算しなさい。

材料の月初在庫高は500kg@520円、当月の購入高は1,500kg@560円、当月の払出数量は1,400kgであった。なお、減耗は発生していない。

▼解答欄

(1) 先入先出法

円

(2) 平均法

円

解答<10>ページ

次のA原料に関する取引にもとづいて、先入先出法によって材料元帳を記入し、当月消費高および帳簿棚卸高を答えなさい。

▼ 解答欄

(単位：kgまたは円)

[illegible]

四

四

問題4-6 ★★★

次の資料により、直接材料費、間接材料費および材料消費価格差異を計算し、材料および材料消費価格差異勘定の記入を完成させなさい。ただし、材料の予定消費価格は@450円であり、実際消費額の計算は先入先出法によっている。なお、棚卸減耗は発生していない。

前月繰越高	100個	@440円	44,000円
当月購入高	700個	@480円	336,000円
当月消費高	650個（そのうち、500個は直接材料である）		

▼ 解答欄

直接材料費

円

間接材料費

円

材料消費価格差異

円

(注) () 内には借方差異ならば「借」、貸方差異ならば「貸」を記入すること。

材		料	
前月繰越	44,000	仕掛品	()
当月購入	336,000	製造間接費	()
		原価差異	()
		次月繰越	()
	380,000		()

材料消費価格差異

原価差異 ()

問題4-7 ★★★

☐ ☐ ☐

次の取引について仕訳し、与えられた勘定に転記しなさい。なお、仕訳なしのときは「仕訳なし」と記入すること。

〈指定勘定科目〉材料、製造間接費、仕掛品、材料消費価格差異

- (1) 材料を次のように消費した。なお、予定消費価格は@65円であった。

直接材料分 2,200kg 間接材料分 400kg

- (2) 当月の材料の実際消費額を平均法で計算した。前月からの繰越分は600kg@62円、当月購入分は2,400kg@67円であった。

- (3) 予定消費額と実際消費額との差額を材料消費価格差異勘定へ振り替えた。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

材 料	
前 月 繰 越	37,200
買 掛 金	160,800

仕 掛 品	

材 料 消 費 価 格 差 異	

製 造 間 接 費	

問題4-8 ★★

次の資料にもとづいて、材料Cの月間消費額および棚卸減耗費を計算しなさい。

月初在庫高	200kg	@400円	80,000円
月間買入高	1,200kg	@400円	480,000円
月間払出数量	1,000kg		
月末実地棚卸量	350kg		

▼ 解答欄

月間消費額 円

棚卸減耗費 円

解答(12)ページ

問題4-9 ★★★

次の資料にもとづいて、(1)材料払出と(2)減耗処理の仕訳を示しなさい。

〈指定勘定科目〉材料，製造間接費，仕掛品

- 当月の主要材料Zの払出量は140トンである。この材料の月初有高は40トン@200千円，月間の買入高は160トン@250千円，月末の有高は56トンであった。材料費の計算は平均法による。材料の減耗量は正常な数量である（解答は単位千円で答えること）。
- 直接材料の月初在庫は80トン@160円，月間の買入高は1,560トン@180円，月間の直接材料の払出高は1,600トン，月末在庫は39トンであった。棚卸減耗量は正常な数量である。払出材料の評価は先入先出法による（解答は単位円で答えること）。

▼ 解答欄

		借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(1)				
	(2)				
2	(1)				
	(2)				

解答(12)ページ

問題4-10 ★★

☐ ☐ ☐

次の取引について仕訳しなさい。

〈指定勘定科目〉材料，仕掛品，製造間接費，材料消費価格差異，当座預金，買掛金

- (1) 主要材料Aを2,500kg@184円，補助材料Bを1,850kg@65円で掛けにて購入し，買入手数料3,400円および引取運賃1,600円を小切手で支払った。なお，これらの引取費用はすべて主要材料Aにかかるものである。
- (2) 補助材料Bのうち50kgを品質不良のため仕入先に返品した。
- (3) 主要材料Aの消費額を予定価格を用いて計上した。予定価格は@190円，実際消費量は2,600kgであった。
- (4) 実際消費額は，主要材料Aが平均法，補助材料Bが先入先出法によって計算している。なお，補助材料Bは棚卸計算法によって実際消費量を計算しており，月末実地棚卸数量は150kgであった。また，各材料の月初棚卸高は次のとおりである。

主要材料A 500kg @180円 90,000円

補助材料B 200kg @ 60円 12,000円

- (5) 主要材料Aの予定消費額と実際消費額との差額を，材料消費価格差異勘定に振り替えた。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

問題4-11 ★★

☐ ☐ ☐

当社では、材料購入の際にそのつど、引取費用を実際額で材料の購入代価に加算し、払出時までに発生する内部材料副費については、購入代価の3%を予定配賦することにより、購入原価としている。以下の取引を仕訳しなさい。

〈指定勘定科目〉材料、当座預金、買掛金、未払金、内部材料副費、仕掛品、製造間接費、
材料副費配賦差異

4/7 材料A1,000kg (@230円) を掛けて購入し、引取費用5,000円については小切手を振り出して支払った。

4/16 材料B200個 (@110円) を小切手を振り出して購入し、引取費用800円については月末払いとした。

4/18 材料A800kgを直接材料として生産現場に払い出した。

4/23 材料B160個を間接材料として生産現場に払い出した。

4/30 当月分の内部材料副費の実際発生額は8,000円であることが判明したので（内部材料副費勘定に記入済み）、予定配賦額との差額を材料副費配賦差異勘定に振り替えた。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
4/7				
4/16				
4/18				
4/23				
4/30				

問題4-12 ★★

☐ ☐ ☐

1. 買入部品Tに関する4月の記録は次のとおりである。

4月1日 繰越 20,000円 (10個)

3日 掛け仕入 150個 購入代価@2,000円 引取費用15,000円は当社が負担した。

5日 製造指図書No. 3に対する出庫 100個

8日 掛け仕入 300個 購入代価@2,100円 引取費用28,500円は当社が負担した。

11日 製造指図書No. 4に対する出庫 120個

19日 製造指図書No. 6に対する出庫 235個

26日 4月11日出庫分のうち5個が倉庫へ返還された。

30日 実地棚卸の結果、買入部品Tの数量は8個であった。

2. 購入原価は、部品購入のつど購入代価に、内部材料副費予定配賦額（購入代価の5%）と引取費用を加えて計算している。なお、引取費用はいずれも小切手を振り出して支払った。

3. 買入部品Tの消費価格の算定は先入先出法による。

〔問1〕以上の資料にもとづいて、解答欄の取引を仕訳しなさい。

〈指定勘定科目〉現金、当座預金、買掛金、材料、製造間接費、内部材料副費、仕掛品、製品、売上原価

〔問2〕解答欄の材料勘定の（ ）内に適切な金額を記入しなさい。

▼解答欄

〔問1〕

取	引	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	4月3日における仕入取引を記帳した。				
2	4月30日に判明した実際残高と帳簿残高との差額は正常な範囲内にあるため、これを原価に計上した。				

〔問2〕

材 料		(単位：円)	
月初有高	()	当月消費高	()
当月仕入高	()	棚卸減耗費	()
	()	月末有高	()
	()		()

.....

解答編

.....

合格トレーニング

日商簿記 2 級 工業簿記

CONTENTS

解答編

Theme01	工業簿記の基礎	〈3〉
Theme02	工業簿記の勘定連絡	〈4〉
Theme03	材料費(Ⅰ)	〈9〉
Theme04	材料費(Ⅱ)	〈10〉
Theme05	労務費(Ⅰ)	〈14〉
Theme06	労務費(Ⅱ)	〈15〉
Theme07	経費	〈17〉
Theme08	個別原価計算(Ⅰ)	〈19〉
Theme09	個別原価計算(Ⅱ)	〈23〉
Theme10	部門別個別原価計算(Ⅰ)	〈30〉
Theme11	部門別個別原価計算(Ⅱ)	〈35〉
Theme12	総合原価計算(Ⅰ)	〈42〉
Theme13	総合原価計算(Ⅱ)	〈43〉
Theme14	総合原価計算(Ⅲ)	〈48〉
Theme15	総合原価計算(Ⅳ)	〈54〉
Theme16	総合原価計算(Ⅴ)	〈62〉
Theme17	財務諸表	〈66〉
Theme18	標準原価計算(Ⅰ)	〈83〉
Theme19	標準原価計算(Ⅱ)	〈86〉
Theme20	直接原価計算(Ⅰ)	〈97〉
Theme21	直接原価計算(Ⅱ)	〈103〉
Theme22	本社工場会計	〈109〉

複合問題編	〈112〉
-------	-------

工業簿記の基礎

問題1-1

- ①〔1〕 工場の工具に対する賃金
- ②〔1〕 工場で使用した電話料金
- ③〔3〕 本社の電気代, ガス代, 水道代
- ④〔1〕 工場建物の減価償却費
- ⑤〔1〕 製品の原料消費額
- ⑥〔2〕 営業所の電気代, ガス代, 水道代
- ⑦〔3〕 本社の従業員の給料
- ⑧〔2〕 新製品発表会の費用
- ⑨〔3〕 本社の企画部費
- ⑩〔1〕 製品の素材消費額
- ⑪〔3〕 本社建物の減価償却費
- ⑫〔2〕 営業所の従業員の給料
- ⑬〔1〕 工場長の給料
- ⑭〔1〕 工場の電気代, ガス代, 水道代
- ⑮〔2〕 営業所建物の減価償却費

解答への道

原価項目の分類 (キーワード)

製造原価: 製造, 工場, 工具など
販売費: 販売, 営業所など
一般管理費: 本社, 企画, 管理など

問題2-1

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	材 料	57,000	買 掛 金	57,000
(2)	仕 掛 品 製造間接費	40,000 17,000	材 料	57,000
(3)	賃 金	70,000	現 金	70,000
(4)	仕 掛 品 製造間接費	50,000 20,000	賃 金	70,000
(5)	経 費	23,000	当 座 預 金	23,000
(6)	仕 掛 品 製造間接費	5,000 18,000	経 費	23,000
(7)	仕 掛 品	55,000	製造間接費	55,000
(8)	製 品	126,000	仕 掛 品	126,000
(9)	売 掛 金 売上原価	210,000 126,000	売 製 上 品	210,000 126,000
(10)	売 上 原 価 月 次 損 益	210,000 126,000	月 次 損 益 売上原価	210,000 126,000

材 料			
(1)	買 掛 金	57,000	(2) 諸 口 57,000

賃 金			
(3)	現 金	70,000	(4) 諸 口 70,000

経 費			
(5)	当 座 預 金	23,000	(6) 諸 口 23,000

仕 掛 品			
(2)	材 料	40,000	(8) 製 品 126,000
(4)	賃 金	50,000	
(6)	経 費	5,000	
(7)	製造間接費	55,000	

製 造 間 接 費			
(2)	材 料	17,000	(7) 仕 掛 品 55,000
(4)	賃 金	20,000	
(6)	経 費	18,000	

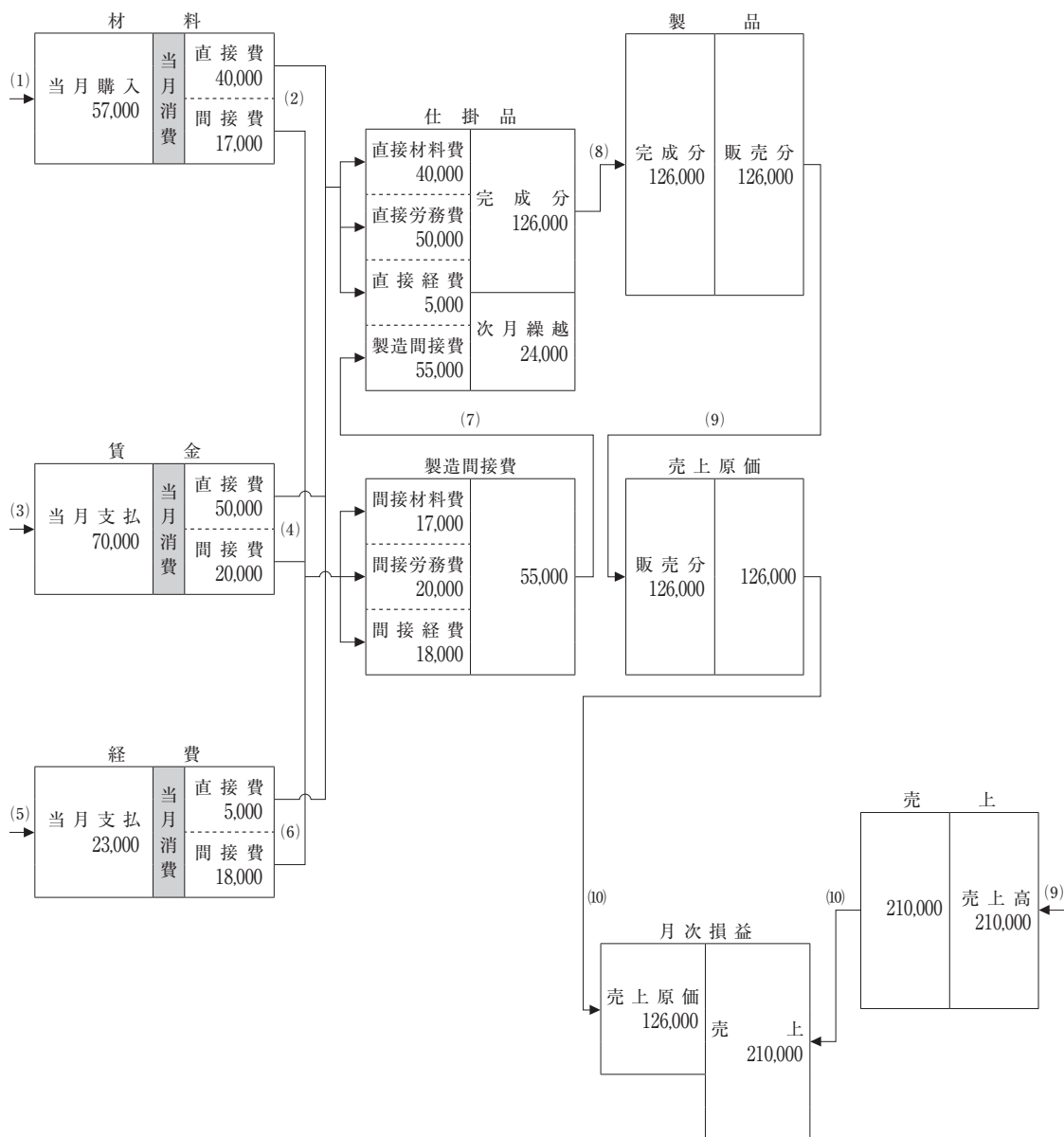
製 品			
(8)	仕 掛 品	126,000	(9) 売 上 原 価 126,000

売 上 原 価			
(9)	製 品	126,000	(10) 月 次 損 益 126,000

売 上			
(10)	月 次 損 益	210,000	(9) 売 掛 金 210,000

月 次 損 益			
(10)	売 上 原 価	126,000	(10) 売 上 210,000

解答への道



問題2-2

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	材 料	120,000	現 金	120,000
(2)	仕 掛 品 製造間接費	80,000 30,000	材 料	110,000
(3)	賃 金 給 料	180,000	現 金	180,000
(4)	仕 掛 品 製造間接費	140,000 35,000	賃 金 給 料	175,000
(5)	経 費	160,000	当 座 預 金	160,000
(6)	仕 掛 品 製造間接費	50,000 100,000	経 費	150,000
(7)	仕 掛 品	165,000	製造間接費	165,000
(8)	製 品	400,000	仕 掛 品	400,000
(9)	売 掛 金 売 上 原 価	600,000 360,000	売 上 品	600,000 360,000
(10)	売 上 月 次 損 益	600,000 360,000	月 次 損 益 売 上 原 価	600,000 360,000

材 料			
前 月 繰 越	20,000	(2) 諸 口	110,000
(1) 現 金	120,000	次 月 繰 越	30,000
	140,000		140,000
前 月 繰 越	30,000		

賃 金 給 料			
(3) 現 金	180,000	前 月 繰 越	10,000
次 月 繰 越	5,000	(4) 諸 口	175,000
	185,000		185,000
		前 月 繰 越	5,000

経 費			
前 月 繰 越	18,000	(6) 諸 口	150,000
(5) 当 座 預 金	160,000	次 月 繰 越	28,000
	178,000		178,000
前 月 繰 越	28,000		

仕 掛 品			
前 月 繰 越	35,000	(8) 製 品	400,000
(2) 材 料	80,000	次 月 繰 越	70,000
(4) 賃 金 給 料	140,000		
(6) 経 費	50,000		
(7) 製造間接費	165,000		
	470,000		470,000
前 月 繰 越	70,000		

製 造 間 接 費			
(2) 材 料	30,000	(7) 仕 掛 品	165,000
(4) 賃 金 給 料	35,000		
(6) 経 費	100,000		
	165,000		165,000

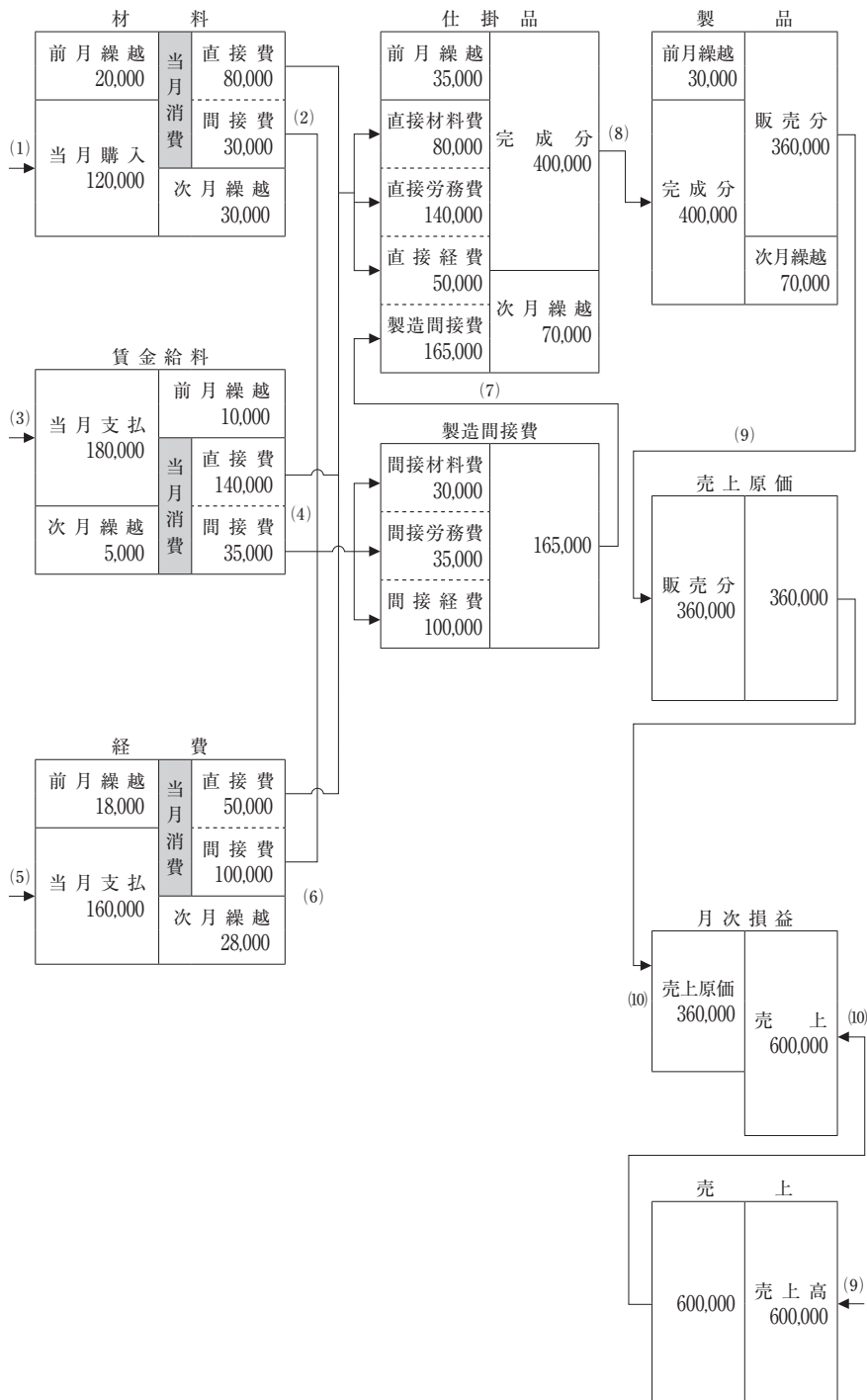
製 品			
前 月 繰 越	30,000	(9) 売 上 原 価	360,000
(8) 仕 掛 品	400,000	次 月 繰 越	70,000
	430,000		430,000
前 月 繰 越	70,000		

売 上 原 価			
(9) 製 品	360,000	(10) 月 次 損 益	360,000

売 上			
(10) 月 次 損 益	600,000	(9) 売 掛 金	600,000

月 次 損 益			
(10) 売 上 原 価	360,000	(10) 売 上	600,000

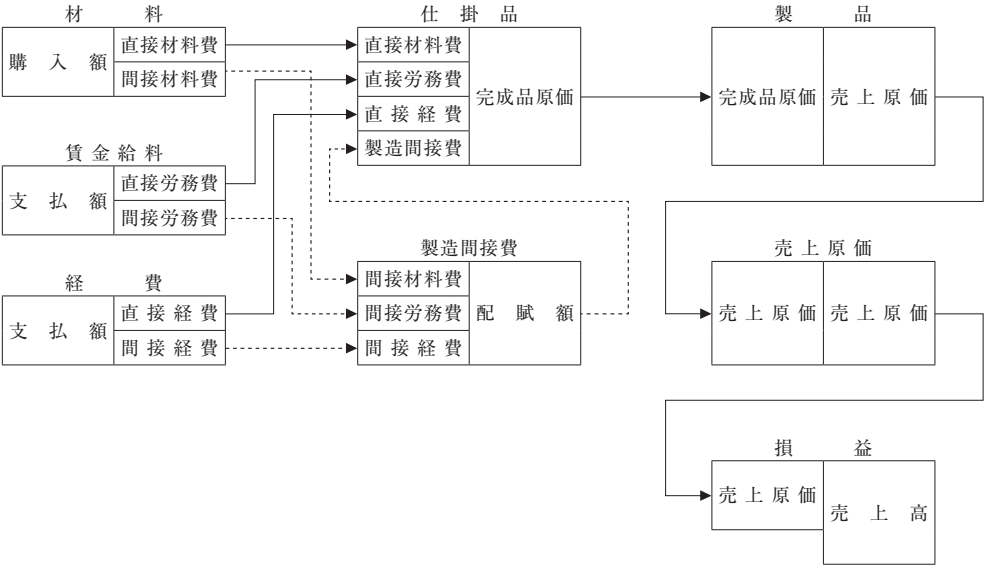
解答への道



問題2-3

①	f	②	i	③	a	④	g	⑤	h
⑥	e	⑦	d	⑧	b	⑨	c	⑩	j

解答への道



材料費（I）

問題3-1

直接材料費	② ④ ⑥
間接材料費	① ③ ⑤

問題3-2

- ①〔1〕製品にそのまま取り付けの部品の消費額
 ②〔2〕工場で使用するドライバーや測定器具などの作業工具・器具
 ③〔2〕製造用の切削油、機械油などの消費額
 ④〔1〕製品の本体を構成する素材の消費額
 ⑤〔2〕工場で利用する黒板、机、椅子
 ⑥〔2〕工場で使用する燃料の消費額
 ⑦〔2〕工場で使用する電球や蛍光灯
 ⑧〔2〕補修用鋼材の消費額
 ⑨〔2〕工員が製造用に使用する作業服や軍手
 ⑩〔1〕製品を製造するための原料の消費額

解答への道

- ①〔1〕買入部品費
 ②〔2〕消耗工具器具備品費
 ③〔2〕工場消耗品費
 ④〔1〕主要材料費
 ⑤〔2〕消耗工具器具備品費
 ⑥〔2〕補助材料費
 ⑦〔2〕工場消耗品費
 ⑧〔2〕補助材料費
 ⑨〔2〕工場消耗品費
 ⑩〔1〕主要材料費

問題3-3

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/ 2	材 料	750,000	買 掛 金	750,000
5/11	材 料	454,000	買 掛 金	450,000
			現 金	4,000
5/19	材 料	180,000	買 掛 金	180,000
5/28	買 掛 金	30,000	材 料	30,000

材		料	
5/1 前月繰越	246,000	5/28 買掛金	30,000
2 買掛金	750,000		
11 諸口	454,000		
19 買掛金	180,000		

04 材料費(Ⅱ)

問題4-1

直接材料費	735,000 円
-------	-----------

間接材料費	175,000 円
-------	-----------

解答への道

直接材料費：甲製品・乙製品の製造のために消費した分
 @ 350 円 × (1,200 個 + 900 個) = 735,000 円

間接材料費：各製品の製造のために共通して消費した分
 @ 350 円 × 500 個 = 175,000 円

問題4-2

月間消費額	170,000 円	帳簿棚卸高	30,000 円
-------	-----------	-------	----------

材		料	
前 月 繰 越	(20,000)	仕 掛 品	(170,000)
当 月 購 入	(180,000)	次 月 繰 越	(30,000)
	(200,000)		(200,000)

解答への道

月間消費額：@200円×850kg＝170,000円

$$\begin{aligned} \text{帳簿棚卸高: } & @200\text{円} \times \frac{(100\text{kg} + 900\text{kg} - 850\text{kg})}{\text{帳簿棚卸数量}} \\ & = 30.000\text{円} \end{aligned}$$

問題4-3

月間消費額	57,000 円
-------	----------

材		料	
前 月 繰 越	(7,500)	製 造 間 接 費	(57,000)
当 月 購 入	(60,000)	次 月 繰 越	(10,500)
	(67,500)		(67,500)

解答への道

$$\textcircled{1} 150 \text{ 円} \times \underbrace{(50 \text{ kg} + 400 \text{ kg} - 70 \text{ kg})}_{\text{実地棚卸数量}} = 57,000 \text{ 円}$$

問題4-4

(1) 先入先出法	764,000 円
-----------	-----------

(2) 平均法	770,000 円
---------	-----------

解答への道

(1) 先入先出法

材 料	
260,000 円 @ 520 円	月初 500kg
840,000 円 @ 560 円	月間買入 1,500kg
	月間払出 1,400kg
	月末 600kg

月末材料：@ 560 円 × 600kg = 336,000 円

当月消費額: (260,000 円 + 840,000 円) - 336,000 円 = 764,000 円

(2) 平均法

材 料	
260,000 円 @ 520 円	月初 500kg
840,000 円 @ 560 円	月間買入 1,500kg
	月間払出 1,400kg
	月末 600kg

月末材料：@ 550 円 × 600kg = 330,000 円

当月消費額: (260,000 円 + 840,000 円) - 330,000 円 = 770,000 円
 ※平均単価 (260,000 円 + 840,000 円) ÷ 2,000kg = @ 550 円

問題4-5

材 料 元 帳										
先入先出法					A 原料			(単位：kg または円)		
日付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額
10	1 前月繰越	200	50	10,000				200	50	10,000
	9 消 費				150	50	7,500	50	50	2,500
	16 仕 入	800	52	41,600				50	50	2,500
								800	52	41,600
	26 消 費				50	50	2,500			
					650	52	33,800	150	52	7,800
	31 次月繰越				150	52	7,800			
		1,000		51,600	1,000		51,600			

当月消費高 43,800 円 帳簿棚卸高 7,800 円

問題4-6

直接材料費	225,000 円
間接材料費	67,500 円
材料消費価格差異	(借) 15,500 円

材 料			
前月繰越	44,000	仕掛品	(225,000)
当月購入	336,000	製造間接費	(67,500)
		原価差異	(15,500)
		次月繰越	(72,000)
	380,000		(380,000)
材料消費価格差異			
原価差異	(15,500)		

解答への道

- (1) 直接材料費：@ 450 円 × 500 個 = 225,000 円
 (2) 間接材料費：@ 450 円 × 150 個 = 67,500 円
 (3) 材料消費価格差異

- ① 予定消費額：@ 450 円 × 650 個 = 292,500 円
 ② 実際消費額

材 料 (先入先出法)		
44,000 円	前月繰越 @ 440 円 100 個	380,000 円 - 72,000 円 = 308,000 円
336,000 円	当月購入高 @ 480 円 700 個	→ @ 480 円 × 150 個 = 72,000 円
	当月消費 直接 500 個 間接 150 個	

- ③ 材料消費価格差異：292,500 円 - 308,000 円
 予 定 実 際
 = △ 15,500 円 (借方差異)

問題4-7

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	仕掛品	143,000	材 料	169,000
	製造間接費	26,000		
(2)	仕 訳 な し			
(3)	材料消費価格差異	2,600	材 料	2,600

材 料			
前月繰越	37,200	諸 口	169,000
買掛金	160,800	材料消費価格差異	2,600
材料消費価格差異			
材 料	2,600		
仕 掛 品			
材 料	143,000		
製 造 間 接 費			
材 料	26,000		

解答への道

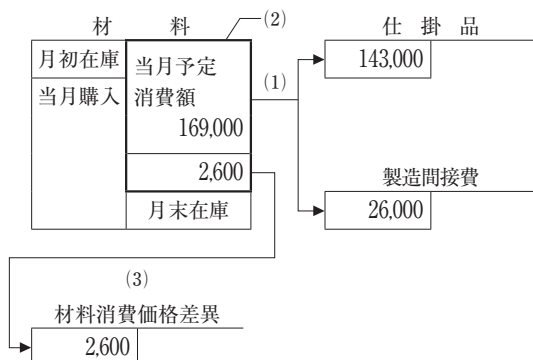
- (1) 材料の消費
 直接材料費：@ 65 円 × 2,200 kg = 143,000 円
 → 仕掛品勘定へ
 間接材料費：@ 65 円 × 400 kg = 26,000 円
 → 製造間接費勘定へ
 (2) 実際消費額の計算

材 料 (平均法)		
37,200 円	前月繰越 @ 62 円 600 kg	→ @ 66 円 × 2,600 kg = 171,600 円
160,800 円	当月購入高 @ 67 円 2,400 kg	
	当月消費 2,600 kg 次月繰越 400 kg	

平均単価 (37,200 円 + 160,800 円) ÷ 3,000 kg = @ 66 円

(3) 差異の計上

材料消費価格差異：169,000円 - 171,600円
 予 定 実 際
 = △2,600円（借方差異）



問題4-8

月間消費額	400,000円
棚卸減耗費	20,000円

解答への道

材 料			
80,000円 @ 400円	月初 200kg	月間払出 1,000kg	月間消費額：@ 400円 × 1,000kg = 400,000円
480,000円 @ 400円	月間買入 1,200kg	減耗 50kg 月末 350kg	棚卸減耗費：@ 400円 × 50kg = 20,000円

問題4-9

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1	(1) 仕 掛 品	33,600	材 料	33,600
	(2) 製造間接費	960	材 料	960
2	(1) 仕 掛 品	286,400	材 料	286,400
	(2) 製造間接費	180	材 料	180

解答への道

- 材料 Z（平均法）

月初有高 @ 200千円 40トン	月間消費高 140トン	(1)材料払出 @200千円×40トン+@250千円×160トン 40トン+160トン = @240千円 @ 240千円 × 140 トン = 33,600 千円
月間買入高 @ 250千円 160トン	帳簿 減耗 4 トン 実地 56 トン	

(2)減耗処理
@ 240 千円 × 4 トン = 960 千円
- 直接材料（先入先出法）

月初在庫 @ 160円 80トン	月間消費高 1,600トン	(1)材料払出 @ 160円 × 80 トン + @ 180円 × 1,520 トン = 286,400円
月間買入高 @ 180円 1,560トン	帳簿 減耗 1 トン 実地 39 トン	

(2)減耗処理
@ 180円 × 1 トン = 180円

問題4-10

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	材 料	585,250	買 掛 金	580,250
			当 座 預 金	5,000
(2)	買 掛 金	3,250	材 料	3,250
(3)	仕 掛 品	494,000	材 料	494,000
(4)	製造間接費	119,250	材 料	119,250
(5)	材 料	13,000	材料消費価格差異	13,000

解答への道

1. 主要材料A

- 予定消費額：@ 190円 × 2,600kg = 494,000円
- 当月購入高：@ 184円 × 2,500kg + 3,400円 + 1,600円
= 465,000円
- 実際消費額の計算

主要材料 A（平均法）			
90,000円	月初 @ 180円 500kg	当月消費 2,600kg	→ @ 185円 × 2,600kg = 481,000円
465,000円	当月購入 @ 186円 * 2,500kg	月末 400kg	
* 465,000円 ÷ 2,500kg = @ 186円			

平均単価：(90,000円 + 465,000円) ÷ (500kg + 2,500kg) = @ 185円

- 差異の計算
材料消費価格差異：494,000円 - 481,000円
 予 定 実 際
 = 13,000円（貸方差異）

2. 補助材料B

補助材料 B（先入先出法）			
12,000円	月初 @ 60円 200kg	当月消費 1,850kg	→ 129,000円 - 9,750円 = 119,250円
117,000円	当月購入 @ 65円 1,800kg *	月末 150kg	
* 1,850kg - 50kg = 1,800kg (1) (2) 返品分			

問題4-11

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
4/7	材 料	241,900	買 掛 金	230,000
			当 座 預 金	5,000
			内部材料副費	6,900
4/16	材 料	23,460	当 座 預 金	22,000
			未 払 金	800
			内部材料副費	660
4/18	仕 掛 品	193,520	材 料	193,520
4/23	製造間接費	18,768	材 料	18,768
4/30	材料副費配賦差異	440	内部材料副費	440

解答への道

4/7 材料の購入代価の3%が内部材料副費として材料の購入原価に加算（予定配賦）されます。ここで、購入した材料の単価にも副費が含まれることに注意してください。

$$230,000 \text{ 円} \times 3\% = 6,900 \text{ 円}$$

$$(230,000 \text{ 円} + 5,000 \text{ 円} + 6,900 \text{ 円}) \div 1,000 \text{ kg} = 241.9 \text{ 円/kg}$$

4/16 $22,000 \text{ 円} \times 3\% = 660 \text{ 円}$

$$(22,000 \text{ 円} + 800 \text{ 円} + 660 \text{ 円}) \div 200 \text{ 個} = 117.3 \text{ 円/個}$$

4/18 $800 \text{ kg} \times 241.9 \text{ 円/kg} = 193,520 \text{ 円}$

4/23 $160 \text{ 個} \times 117.3 \text{ 円/個} = 18,768 \text{ 円}$

4/30 $(6,900 \text{ 円} + 660 \text{ 円}) - 8,000 \text{ 円} = \triangle 440 \text{ 円 (借方差異)}$

問題4-12

〔問1〕

取 引	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1 4月3日における仕入取引を記帳した。	材 料	330,000	買 掛 金	300,000
			当座預金	15,000
			内部材料副費	15,000
2 4月30日に判明した実際残高と帳簿残高との差額は正常な範囲内にあるため、これを原価に計上した。	製造間接費	4,600	材 料	4,600

〔問2〕

材	料	(単位：円)
月初有高 (20,000)	当月消費高	(1,017,000)
当月仕入高 (1,020,000)	棚卸減耗費 (4,600)	
	月末有高 (18,400)	
		<u>(1,040,000)</u>
		<u>(1,040,000)</u>

解答への道

1. 購入原価の計算

$$4/3 : \underbrace{@2,000 \text{ 円} \times 150 \text{ 個}}_{\text{購入代価}} + \underbrace{15,000 \text{ 円}}_{\text{引取費用}} + \underbrace{@2,000 \text{ 円} \times 5\% \times 150 \text{ 個}}_{\text{内部材料副費}} \\ = 330,000 \text{ 円 } (@2,200 \text{ 円})$$

$$4/8 : \underbrace{@2,100 \text{ 円} \times 300 \text{ 個}}_{\text{購入代価}} + \underbrace{28,500 \text{ 円}}_{\text{引取費用}} + \underbrace{@2,100 \text{ 円} \times 5\% \times 300 \text{ 個}}_{\text{内部材料副費}} \\ = 690,000 \text{ 円 } (@2,300 \text{ 円})$$

2. 材料勘定の計算と記入

材	料
月初 4/1 10 個 20,000 円 (@ 2,000 円)	消費 (払出) 4/5 100 個 → @2,000円×10個 + @2,200円×90個 = 218,000円 4/11 120 個 → @2,200円×60個 + @2,300円×60個 = 270,000円 (4/26 戻り△5 個) → @2,300円(4/11分)×△5個 = △11,500円(注) 4/19 235 個 → @2,300円×235個 = 540,500円
購入 4/3 150 個 330,000 円 (@ 2,200 円)	
4/8 300 個 690,000 円 (@ 2,300 円)	棚卸減耗 2 個 (@ 2,300 円) 実地有高 8 個 (@ 2,300 円)

(注) 4/26 の戻り 5 個は 4/11 出庫分であることから、4/11 は 115 個 (120 個 - 5 個) のみ消費したことになります。その場合、先入先出法による 4/11 の払出額は、@ 2,200 円 × 60 個 + @ 2,300 円 × 55 個となり、返品分はすべて @ 2,300 円の材料であることがわかります。